



資料編

資料編

目次

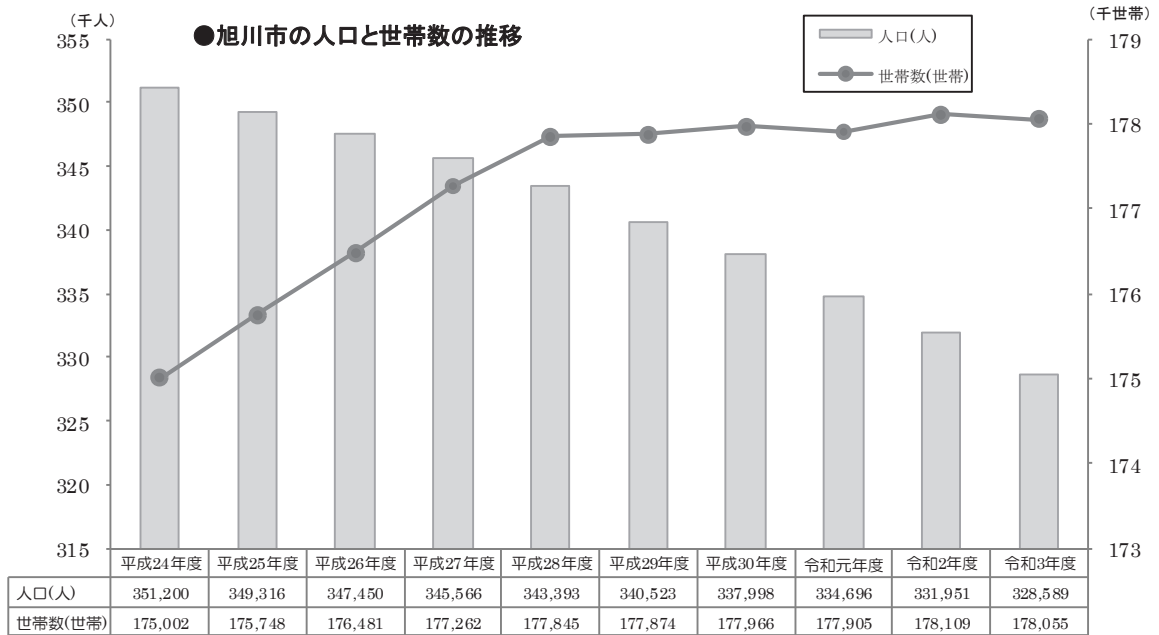
資料一 旭川市の現状	140
1-1 旭川市の人口と世帯数の推移	
1-2 旭川市の出生数と出生率の推移	
1-3 旭川市の人口構成比の推移	
1-4 将来の推計人口	
1-5 旭川市の人口構成比の将来推移	
1-6 一般会計予算の歳入の推移	
1-7 世帯数と町内会加入率の推移	
資料二 旭川市の冬の気象状況	144
2-1 道内気象官署の降雪量（平年値）	
2-2 道内気象官署の最深積雪と1月の平均気温（平年値）	
資料三 旭川市の除排雪の現状	145
3-1 除雪費の推移と降雪量	
3-2 除雪費の推移と積雪積算値	
3-3 一人当たりの除雪費と一般会計に占める除雪費の割合	
3-4 除雪延長の推移	
3-5 雪堆積場と積雪積算値の推移	
3-6 積雪積算値と改善要望件数の推移	
資料四 道内各都市との比較	148
4-1 道内各都市の状況	
4-2 道内各都市の一人当たり除雪費	
4-3 道内各都市の1Km当たり除雪費等	
4-4 道内各都市の住民支援制度	
資料五 旭川市の除雪企業の現状	155
5-1 オペレータの年齢構成	
5-2 除雪機械の使用年数	
5-3 ダンプ車両台数	
5-4 旭川市の道路整備事業費と企業数の推移	
資料六 アンケート調査等	157
6-1 令和3年度旭川市市民アンケート調査結果	
6-2 令和元年度除排雪に関するアンケート調査結果	
6-3 雪対策基本計画の各取組の評価・検証(平成27年度～令和元年度)	
資料七 旭川市雪対策審議会	180
7-1 旭川市雪対策審議会設立趣旨	
7-2 旭川市雪対策審議会の経過	
7-3 旭川市雪対策審議会委員名簿	
資料八 パブリックコメント	184

資料— 1

旭川市の現状

1-1 旭川市の人口と世帯数の推移

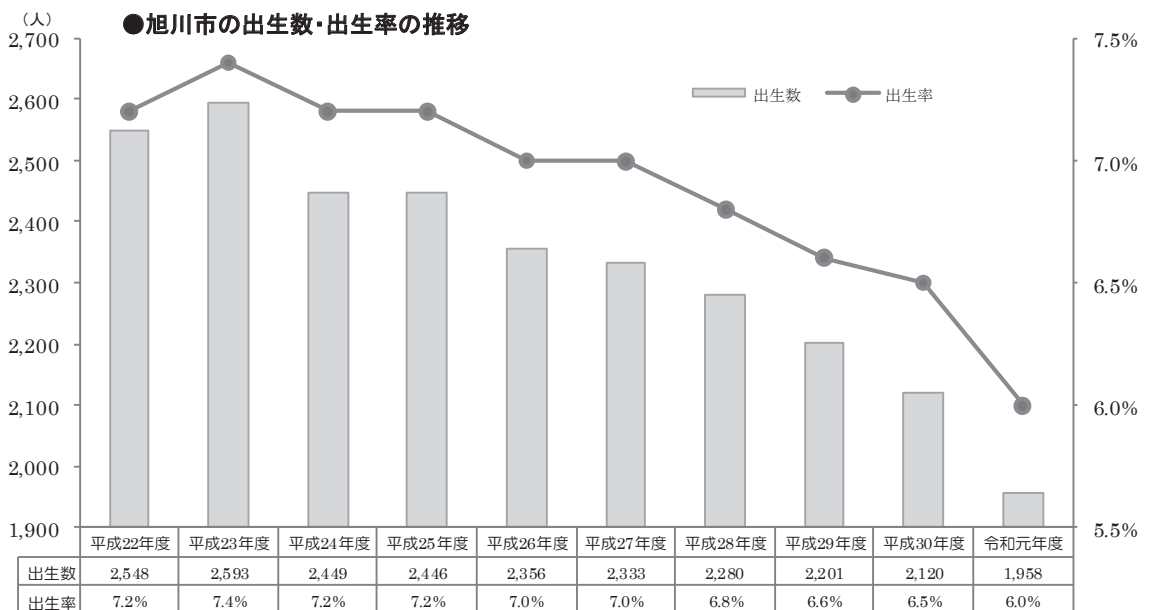
本市の人口は平成 17 年まで 36 万人台を維持してきましたが、その後は年々減少し、現在は 32 万人台となっています。一方、世帯数については、徐々に増加してきましたが、近年は 17.8 万世帯前後で横ばいとなっています。



※各年度 9 月末現在

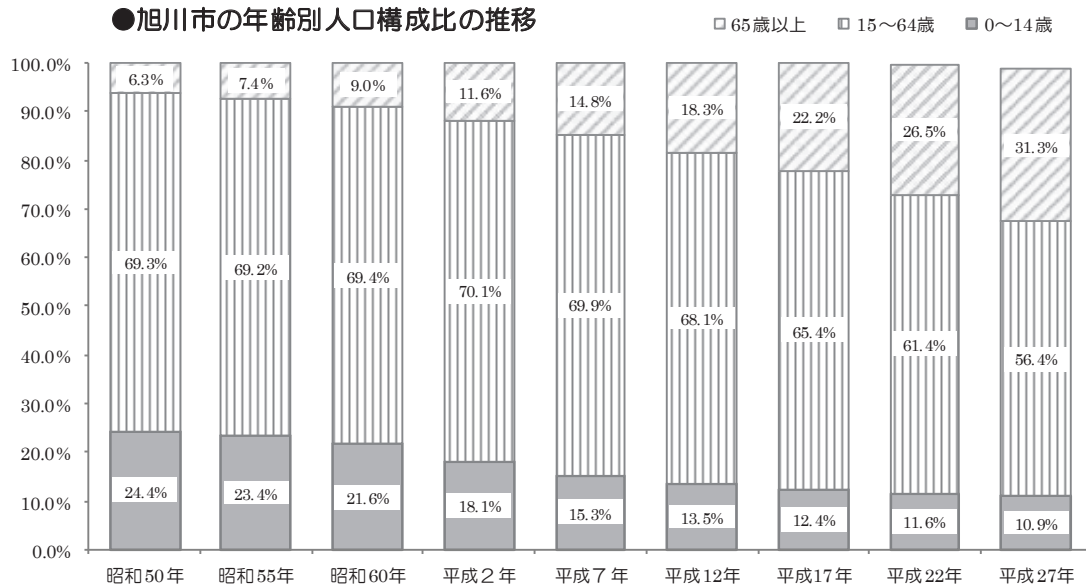
1-2 旭川市の出生数と出生率の推移

人口の減少とともに、出生数・出生率も減少傾向が続いています。



1-3 旭川市の人口構成比の推移

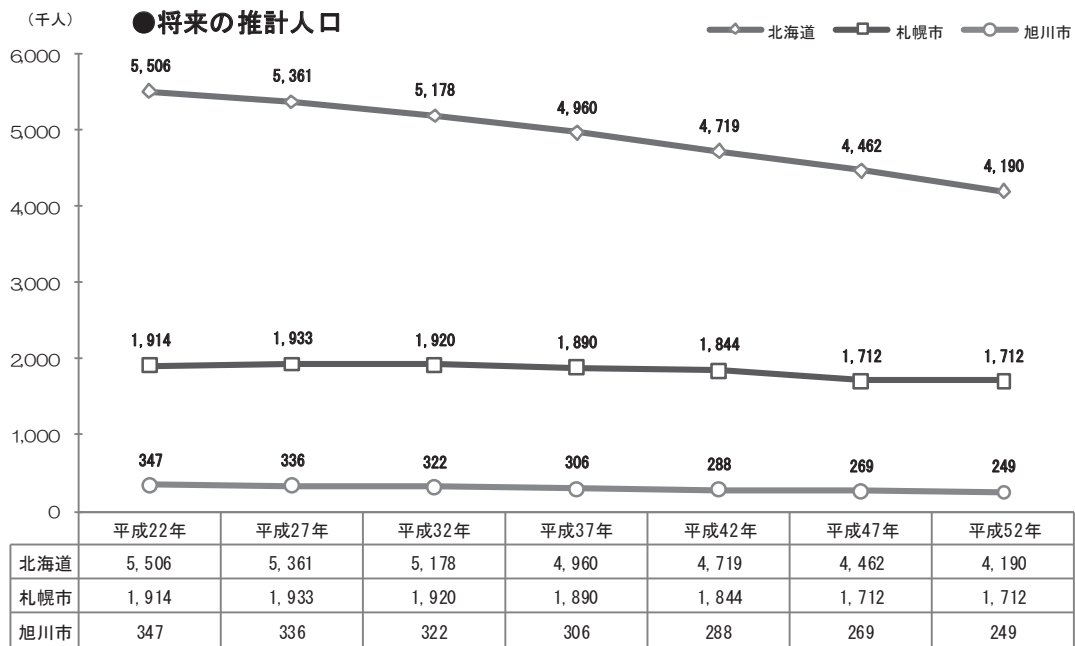
65歳以上の人口の割合が多くなり、14歳以下の人口割合が減少する少子高齢化が進行しています。



※年齢3区分人口の割合は、年齢「不詳」を含めた総数から算出しています。

1-4 将来の推計人口

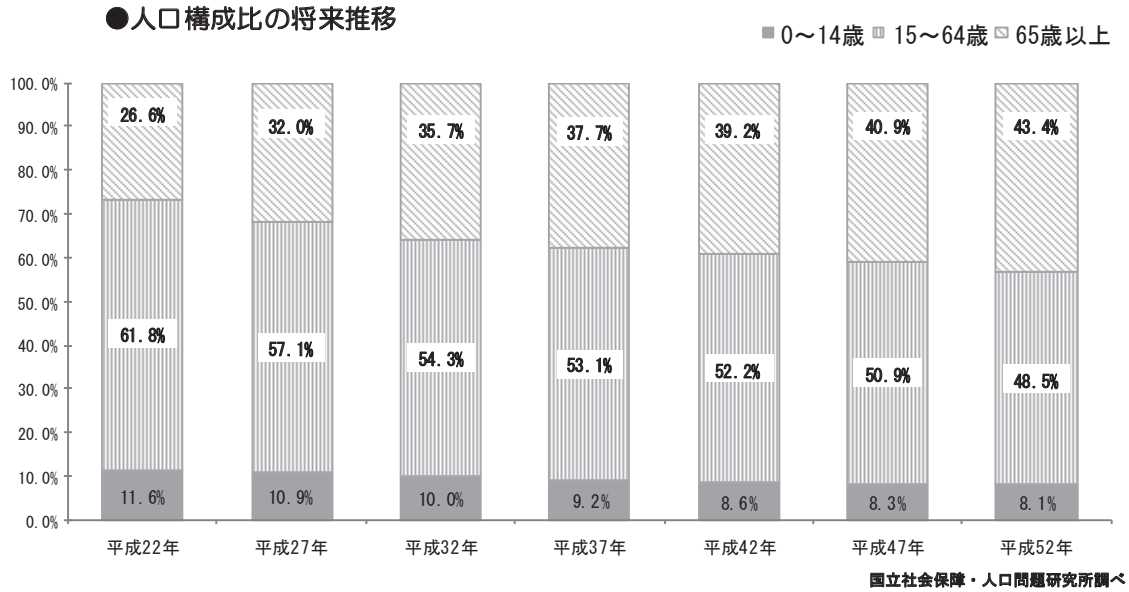
北海道及び札幌市と同様に減少傾向にあり、本市では、平成52年に25万人を割ることが推計されています。



国立社会保障・人口問題研究所調べ

1-5 旭川市の人口構成比の将来推移

平成42年には、約40%が65歳以上となり、約8%が14歳以下と少子高齢化が加速すると想定されています。

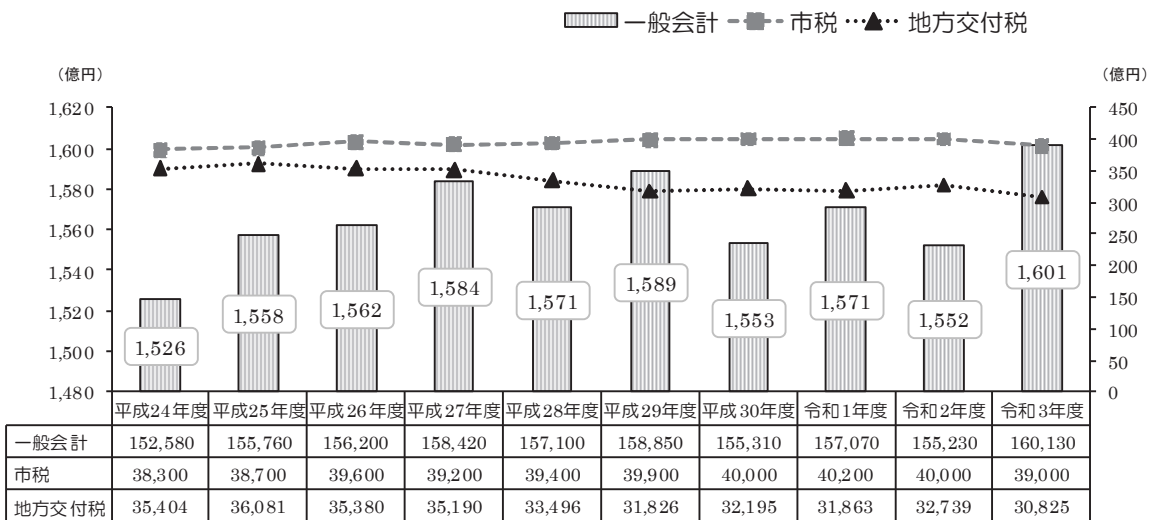


※四捨五入の関係で合計が100にならない場合があります。

1-6 一般会計予算と歳入の推移

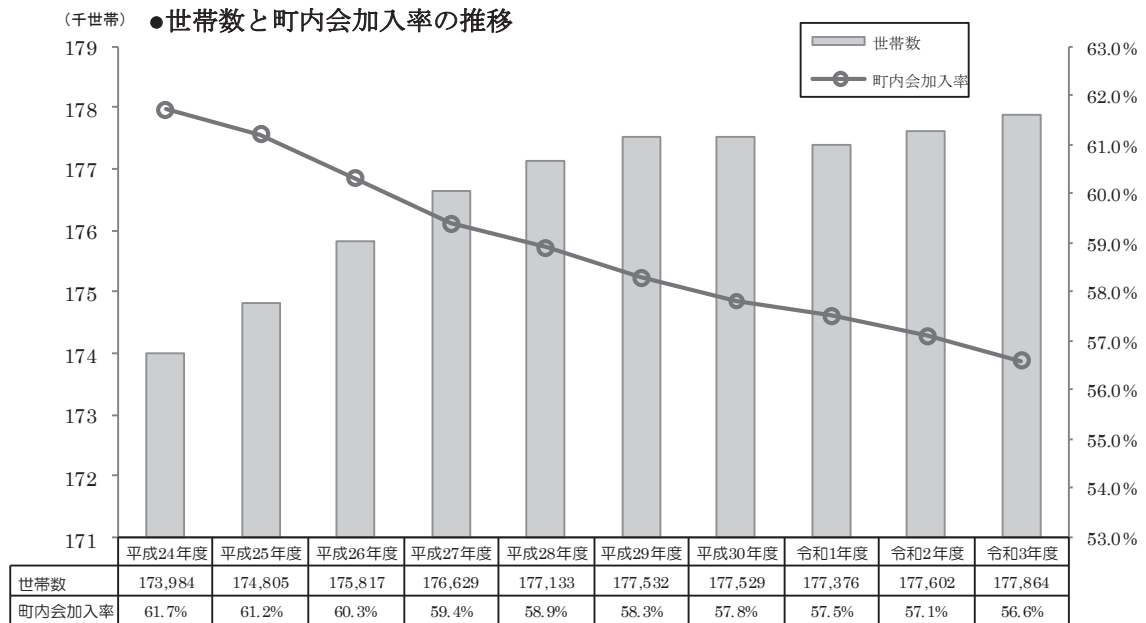
本市の一般会計予算は、平成25年度以降1,550億円以上で推移し、令和3年度は約1,601億円となっていますが、地方交付税は平成25年度の約361億円から令和3年度は約308億円に減少しています。

●一般会計予算と歳入の推移



1-7 世帯数と町内会加入率の推移

近年の世帯数は横ばいですが、町内会への加入率は年々減少しています。



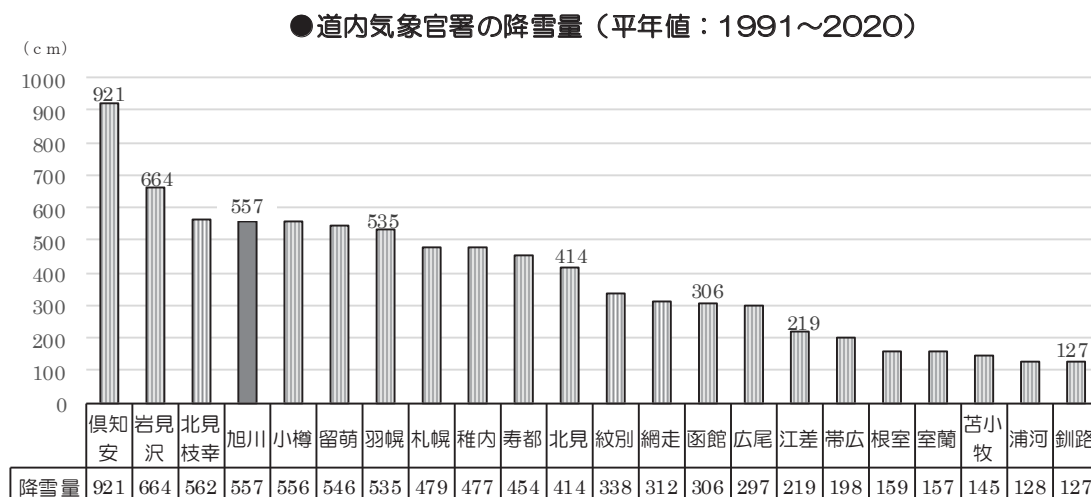
※各年度4月1日現在

資料— 2

旭川市の冬の気象状況

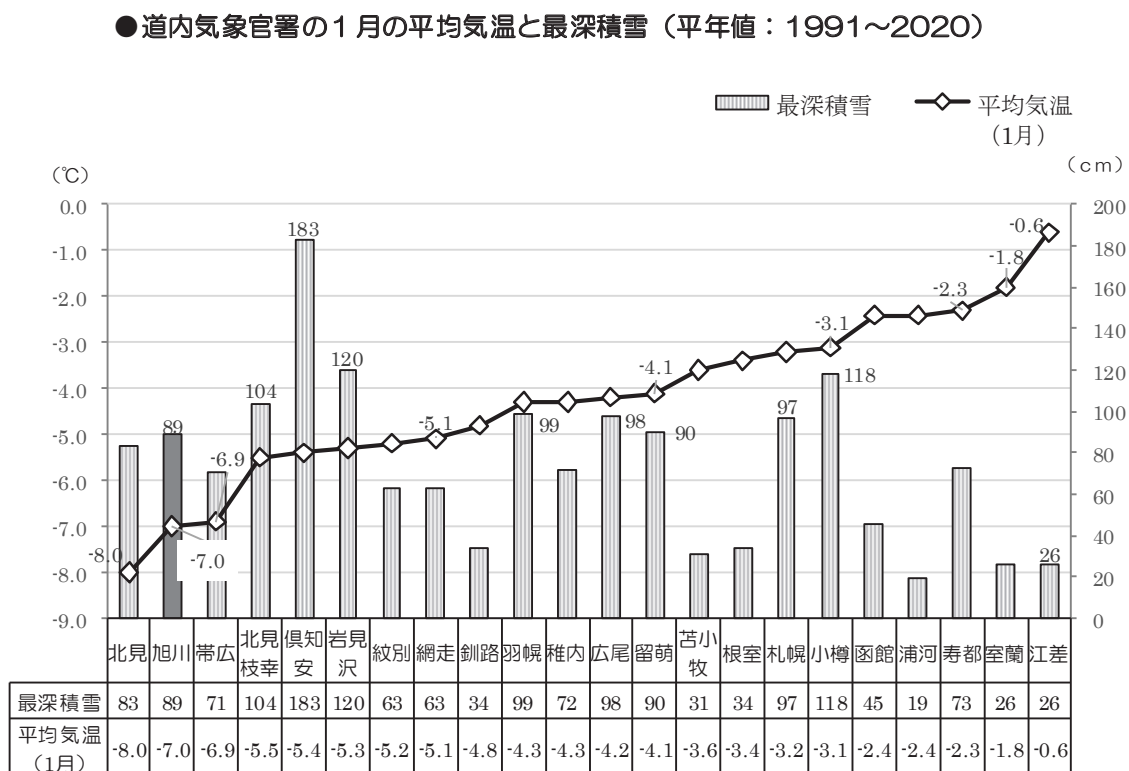
2-1 道内気象官署の降雪量（平年値）

本市の降雪量は、557cmと道内4番目に多くなっています。



2-2 道内気象官署の最深積雪と1月の平均気温（平年値）

本市の1月の平均気温は、 -7.0°C と道内で2番目に低くなっています。

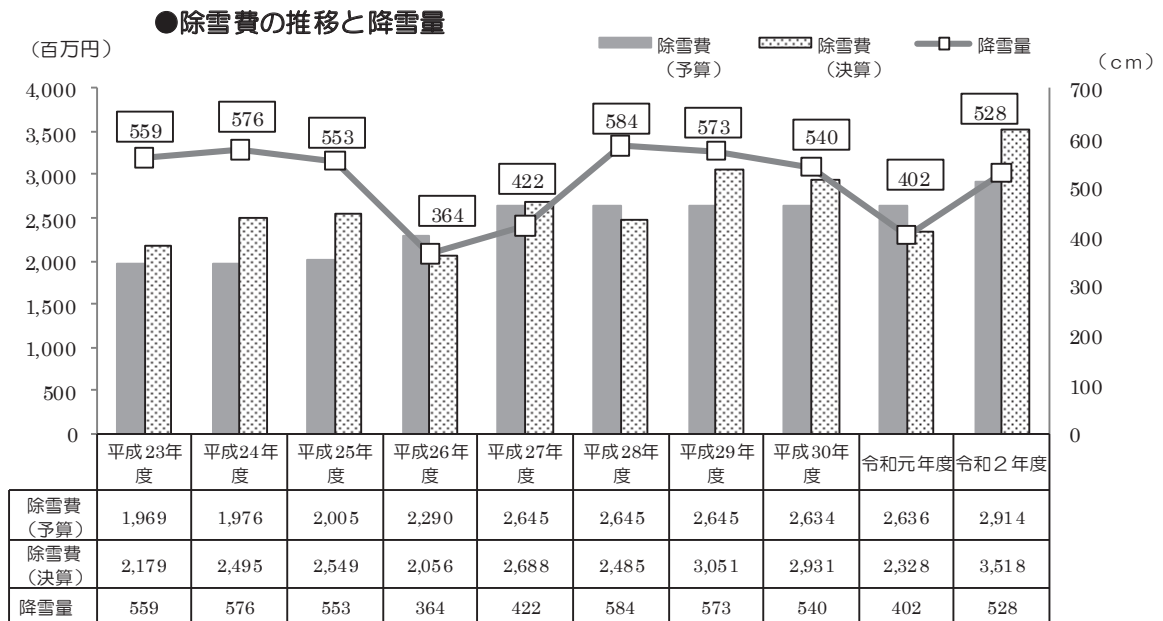


資料— 3

旭川市の除排雪の現状

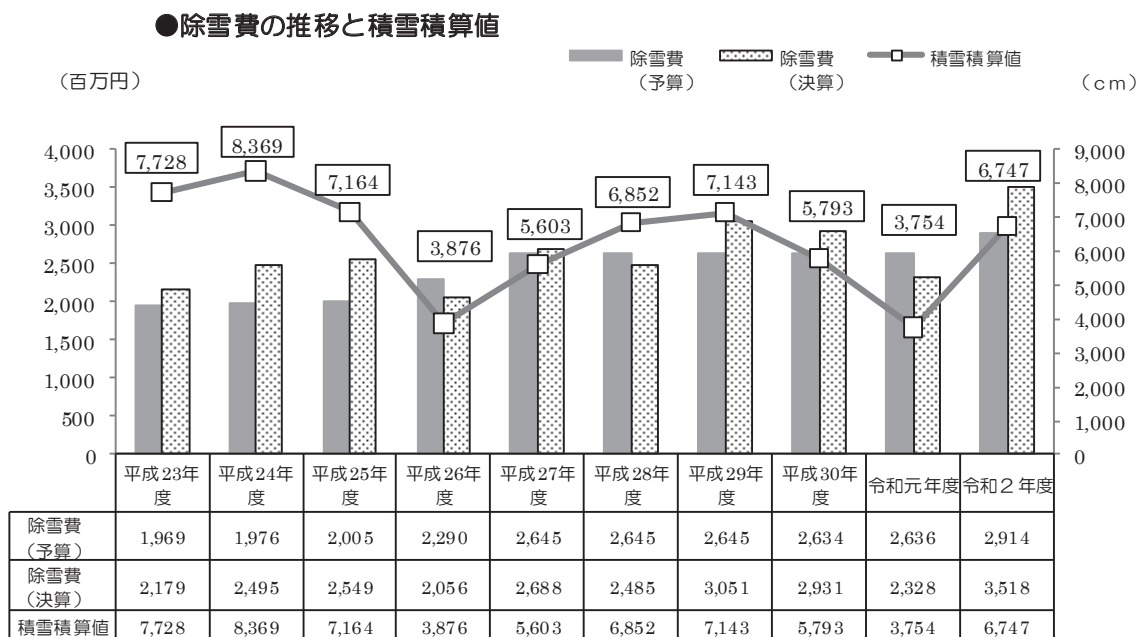
3-1 除雪費の推移と降雪量

近年は、気象状況の変化に伴い道路の融雪が進まないことやザクザク路面を処理することにより排雪量が増すなど、降雪量や積雪積算値にかかわらず除排雪費がかさむ傾向にあります。



3-2 除雪費の推移と積雪積算値

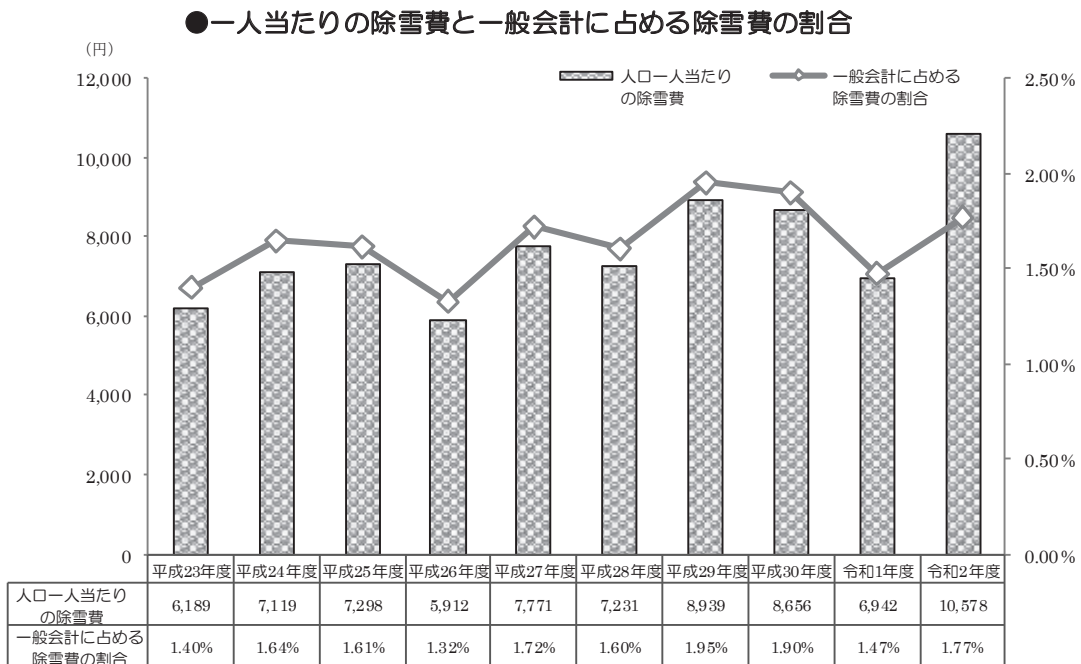
この10年で、除雪費(予算)は約10億円増加しています。



※積雪積算値は、11月10日から翌年3月31日までの日最大積雪量の累計値。

3-3 一人当たりの除雪費と一般会計に占める除雪費の割合

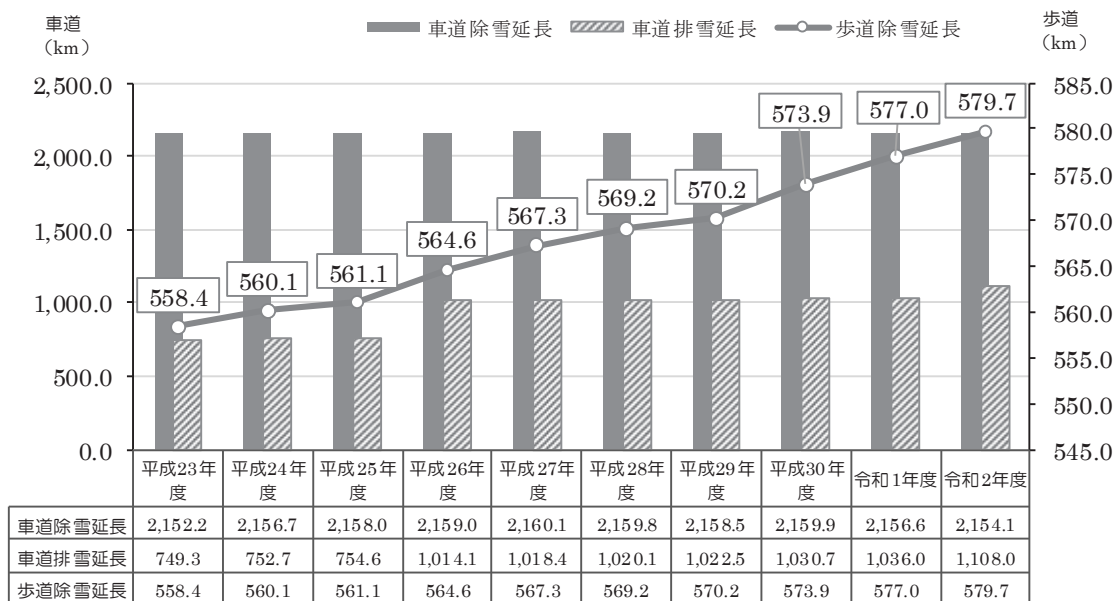
一人当たりの除雪費は、気象状況の変化に伴い道路の融雪が進まないことやザクザク路面を処理することによる排雪量の増加に影響を受ける傾向にあります。



3-4 除雪延長の推移

本市の総除雪延長は2,150 kmを超え、北海道1周を上回る距離に相当します。

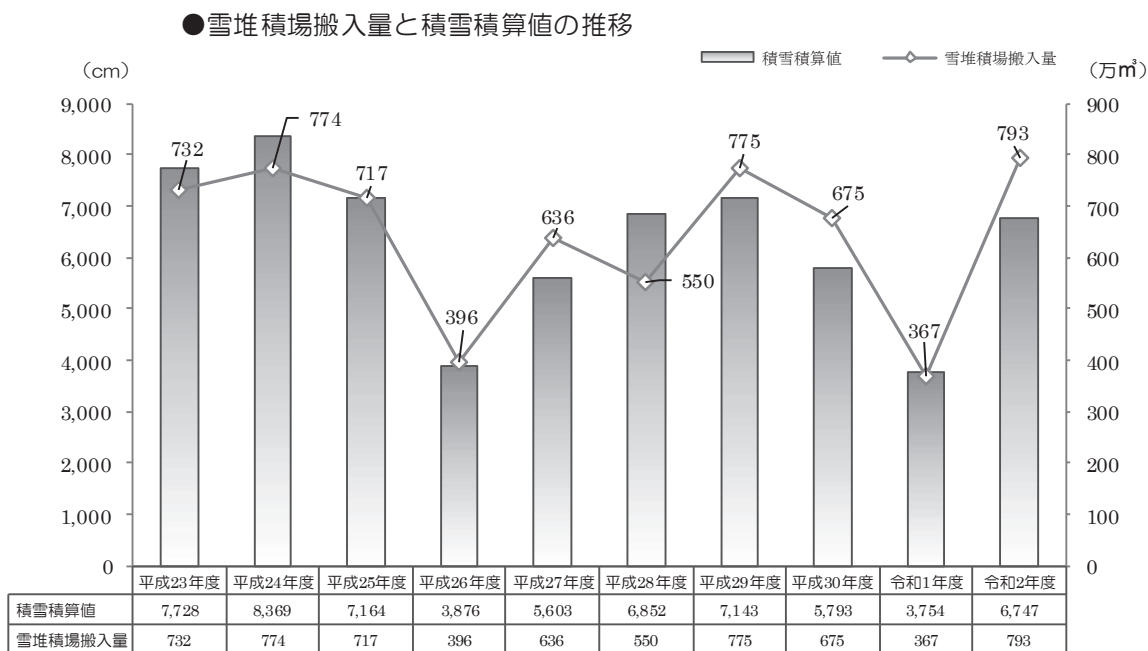
●除雪延長等の推移



※平成26年度に現計画の取組を先取りし、生活道路の排雪強化を目的に排雪路線を増加しています。

3-5 雪堆積場と積雪積算値の推移

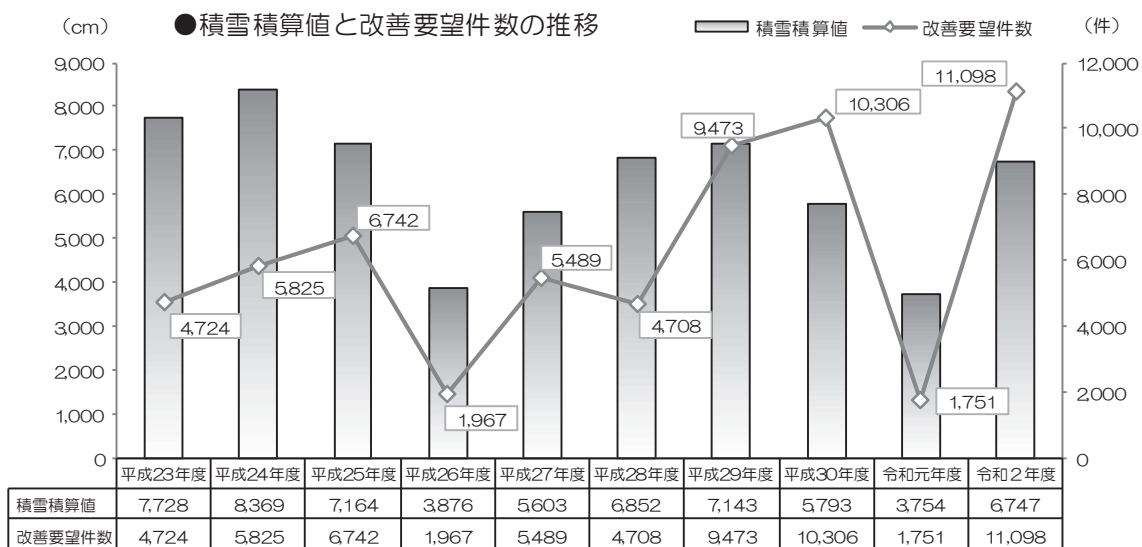
近年は、積雪量に加え気象状況の変化も影響し、雪堆積場搬入量が増減しています。



※積雪積算値は、11月10日から翌年3月31日までの日最大積雪量の累計値。

3-6 積雪積算値と改善要望件数の推移

近年は、積雪量に加え気象状況の変化も影響し、改善要望件数が増減しています。



※積雪積算値は、11月10日から翌年3月31日までの日最大積雪量の累計値。

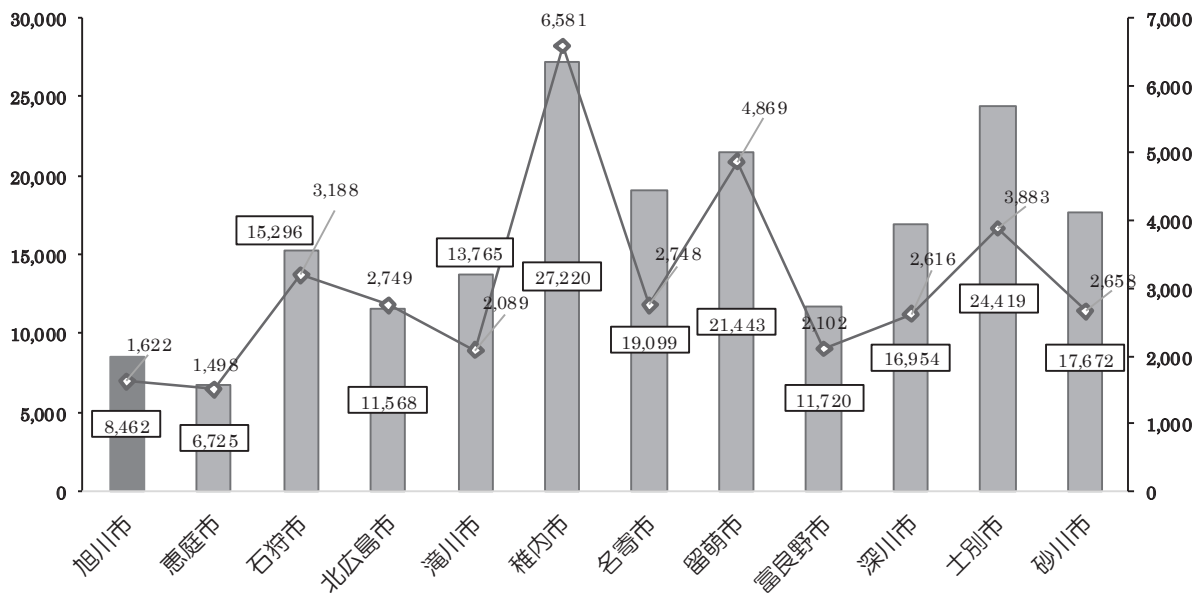
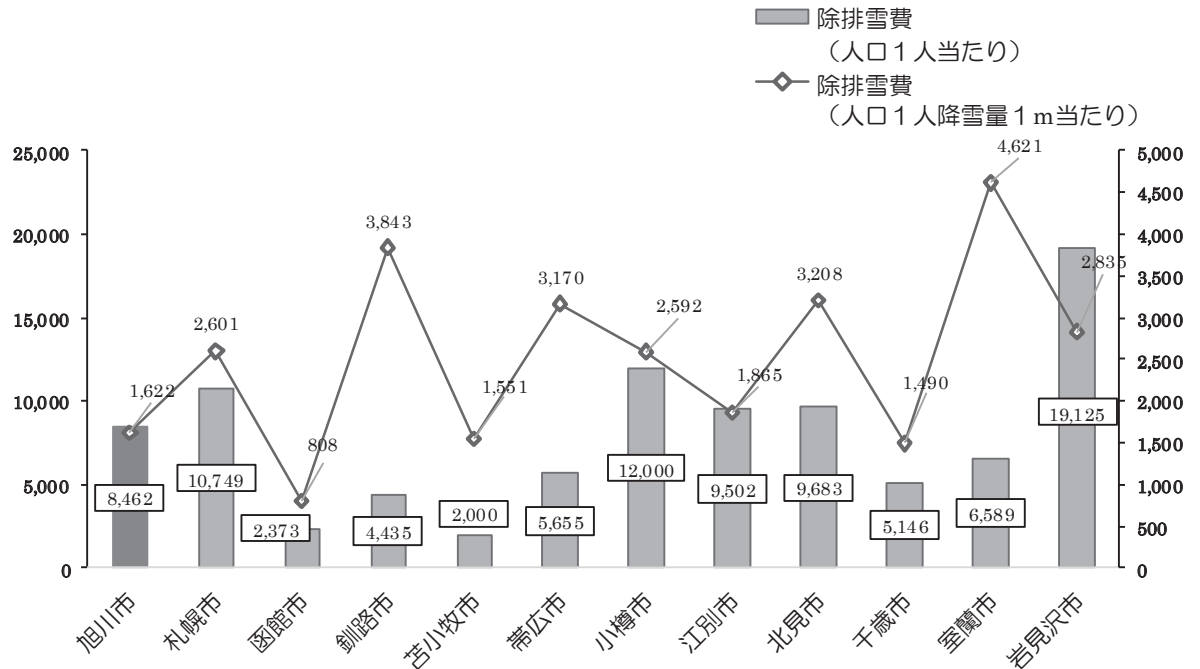
道内各都市の状況【人口、世帯数、降雪状況、除排雪延長、除排雪予算】（平成28年度～令和2年度）②

項目/年度	単位	恵庭市	石狩市	北広島市	滝川市	稚内市	名寄市	留萌市	富良野市	深川市	士別市	砂川市	
1 行政区域内人口（各年4月1日現在）													
平成28年度	人	88,990	59,120	59,140	40,978	35,847	28,200	22,293	22,661	21,543	20,004	17,839	
平成29年度		89,320	58,831	58,964	40,523	35,051	27,944	21,861	22,249	21,284	19,548	17,406	
平成30年度		89,580	58,406	58,739	39,997	34,394	27,557	21,498	21,910	20,891	19,207	17,185	
令和元年度		89,801	58,260	58,462	39,414	33,827	27,224	20,951	21,535	20,446	18,788	16,912	
令和2年度		89,982	58,221	58,147	38,929	32,597	26,993	20,452	21,289	20,058	18,375	16,653	
5年平均		89,535	58,568	58,690	39,968	34,343	27,600	21,411	21,929	20,840	19,184	17,159	
2 行政区域内世帯数（各年4月1日現在）													
平成28年度	世帯	32,019	27,244	26,913	21,453	18,353	14,148	11,780	10,915	10,912	9,648	8,983	
平成29年度		32,550	27,406	27,161	21,395	18,076	14,144	11,700	10,889	10,882	9,524	8,916	
平成30年度		33,025	27,429	27,397	21,365	17,898	14,133	11,647	10,829	10,818	9,431	8,890	
令和元年度		33,509	27,634	27,570	21,189	17,745	14,126	11,467	10,765	10,721	9,339	8,874	
令和2年度		33,905	27,930	27,800	21,128	17,500	14,198	11,310	10,723	10,661	9,282	8,799	
5年平均		33,002	27,529	27,368	21,306	17,914	14,150	11,581	10,820	10,799	9,441	8,892	
3 降雪量・最大積雪深（初雪～3月31日）													
平成28年度	cm	累計降雪量	550	419	388	528	387	690	440	553	689	534	432
		最大積雪深	90	73	81	78	34	91	57	88	83	106	79
平成29年度	cm	累計降雪量	484	556	444	1,082	613	803	577	611	735	855	996
		最大積雪深	80	109	85	170	80	132	135	108	138	182	165
平成30年度	cm	累計降雪量	418	507	464	568	290	692	442	582	629	663	604
		最大積雪深	68	93	76	95	39	80	73	74	100	107	109
令和元年度	cm	累計降雪量	425	422	409	400	269	615	259	528	579	432	638
		最大積雪深	70	70	66	46	24	70	34	67	59	67	41
令和2年度	cm	累計降雪量	368	495	399	717	509	675	484	514	608	660	654
		最大積雪深	85	100	83	145	104	108	81	119	122	144	135
5年平均		449	480	421	659	414	695	440	558	648	629	665	
		79	89	78	107	56	96	76	91	100	121	106	
4 除雪延長・排雪延長													
平成28年度	km	道路除雪	541.0	551.8	386.6	407.3	449.3	444.1	136.4	571.850	384.9	563.1	183.87
		歩道除雪	180.0	97.4	114.7	66.3	42.9	57.6	31.2	64.429	54.0	46	51.14
平成29年度	km	道路除雪	541.0	551.8	386.6	407.3	449.3	430.1	136.4	566.419	385.2	563.7	184.02
		歩道除雪	180.0	97.4	116	66.3	42.9	61.8	31.1	64.622	54.1	46.4	51.14
平成30年度	km	道路除雪	541.3	552.1	387.4	408.7	449.3	437.5	135.8	566.352	385.3	566	181.33
		歩道除雪	189.3	99.3	116.6	66.1	42.9	61.3	31.4	64.999	54.1	47.8	51.14
令和元年度	km	道路除雪	541.1	555.6	387.9	408.7	449.0	433.7	135.8	566.101	385.3	562.1	183.06
		歩道除雪	189.8	99.8	120.2	66.1	42.9	61.3	31.4	63.885	54.1	47.8	51.31
令和2年度	km	道路除雪	541.1	555.8	388.4	408.4	449.0	434.6	136.2	565.860	385.3	557.307	184.01
		歩道除雪	189.8	99.8	121.4	66.1	42.9	61.3	31.5	64.136	54.2	48.385	51.31
5年平均	km	道路除雪	541.0	553.4	387.3	408.0	449.1	437.6	136.1	567.3	385.2	562.3	183.2
		歩道除雪	185.7	98.7	117.7	66.2	42.9	60.6	31.3	64.4	54.1	47.2	51.2
		13.3	304.7	63.1	224.4	241.6	148.2	54.3	97.3	94.1			
5 除排雪予算													
平成28年度	千円	当初予算	389,794	758,554	632,958	589,685	117,006	483,446	401,435	242,887	343,583	440,021	252,470
		決算	404,340	665,694	645,318	513,515	635,340	458,489	305,699	278,399	323,259	412,156	196,086
平成29年度	千円	当初予算	381,373	768,707	661,434	529,996	108,586	561,989	420,993	245,000	342,378	466,789	268,676
		決算	428,021	877,108	658,943	610,167	1,039,680	571,312	589,912	342,749	345,428	523,024	404,235
平成30年度	千円	当初予算	416,781	831,973	674,251	541,588	104,751	574,748	382,785	245,000	351,532	475,693	281,014
		決算	446,417	1,057,376	723,596	536,381	901,597	534,789	441,320	31,054	353,592	456,137	266,710
令和元年度	千円	当初予算	436,817	942,898	741,840	578,640	88,301	602,873	451,472	292,658	360,754	545,461	288,693
		決算	489,856	726,643	673,686	485,124	901,688	435,705	417,560	222,932	363,005	437,179	207,843
令和2年度	千円	当初予算	446,353	950,634	779,908	597,842	117,081	609,227	455,058	333,996	382,203	522,445	292,600
		決算	489,626	1,152,526	693,008	605,527	995,884	635,300	541,105	409,881	381,406	513,786	441,322
5年平均	千円	当初予算	410,224	850,553	699,078	563,550	107,145	566,457	422,345	271,908	356,090	490,082	276,691
		決算	467,654	895,869	678,910	550,143	934,838	527,118	459,118	257,003	353,338	468,456	303,239

4-2 道内各都市の1人当たり除雪費

旭川市の1人当たりの除雪費は約8,500円となっており、23都市中で8番目に安価であり、人口1人降雪量1mあたりは5番目に安価となっています。道内各都市の状況はグラフのとおりです。

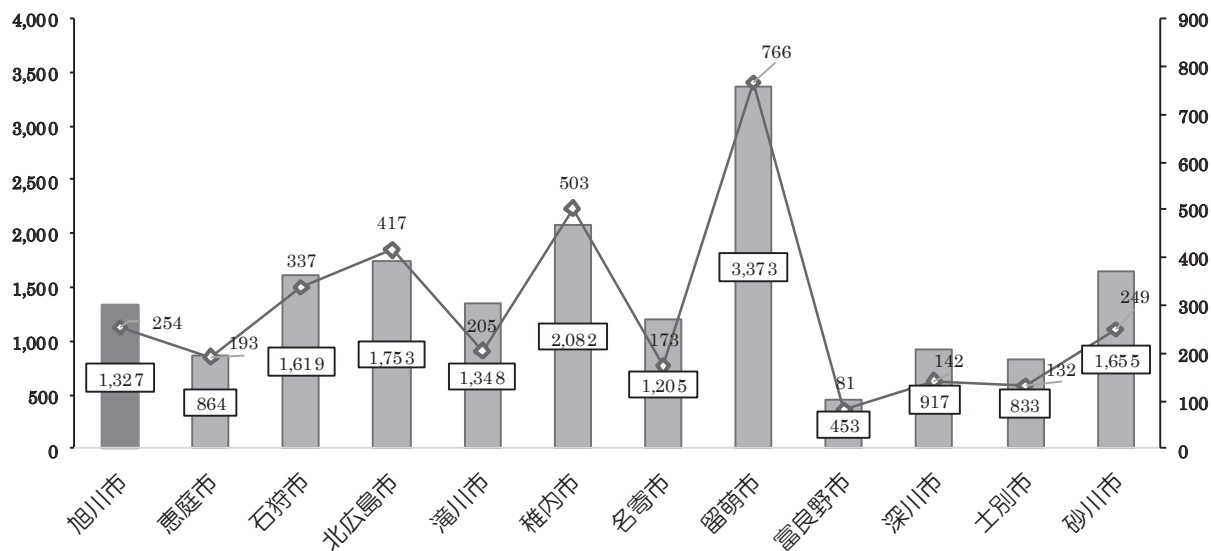
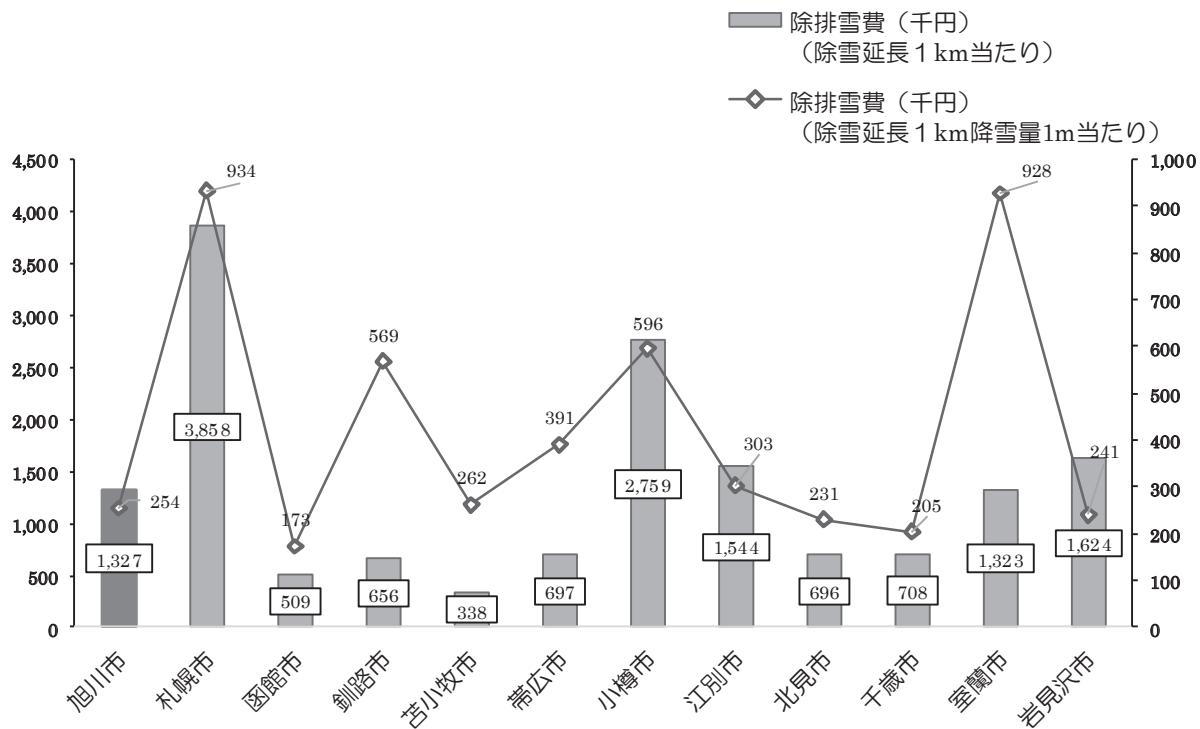
●道内各都市の人口1人当たり除排雪費等



4-3 道内各都市の1kmあたり除雪費等

旭川市の1kmあたりの除雪費は約1,327,000円となっており、23都市中で11番目となっています。道内各都市の状況はグラフのとおりです。

●道内各都市の除雪延長1kmあたり除排雪費等



4-4 道内各都市の住民支援制度

※令和3年度調べ

(1) 住民への支援制度

都市名	除雪機械・排雪ダンプの貸出し（オペレータ付）	ロードヒーティング・融雪機・融雪槽設置等の補助制度
旭川市	有・有償（除雪機械・排雪ダンプのどちらか一方は無償）	有・有償（住宅雪対策補助金、30万円以上の工事対象、補助金一律10万円、抽選あり）
札幌市	有・有償（除雪パートナーシップ制度、市民助成トラック制度）	有・有償（融雪施設設置資金あっせん制度）
函館市	有・無償（機械だけの貸出で、オペレータ無）	無
釧路市	無	無
苫小牧市	無	無
帯広市	無	無
小樽市	有・無償（市民が排雪積込費用を負担する際、排雪ダンプ（オペレータ付）の費用を市が負担する、貸出ダンプ制度あり）	無
江別市	有（自治会排雪用大型ロータリ（オペレータ無）・排雪ダンプ貸出し）	自治会排雪用大型ロータリ（オペレータ無）・排雪ダンプ
北見市	無	無
千歳市	有・無償	無
室蘭市	無	無
岩見沢市	無	無
恵庭市	無	無
石狩市	無	有（消融雪機器設置費「無利子貸付制度」）
北広島市	無	無
滝川市	無	無
稚内市	無（利用者が少ないため、制度廃止）	無
名寄市	無	有・有償（一部補助）
留萌市	有・無償（排雪ダンプの貸出し（オペレータ付））	無
富良野市	無	有
深川市	無	有
士別市	無	無
砂川市	無	無

※制度などの有無、制度などが有る場合に有償又は無償

(2) 市民協働の取組等

都市名	地域住民等と一体になっている取組	町内会等が自ら除雪又は排雪を行う場合に対し、補助・報償金など支援制度があるか（パートナーシップ含む）
旭川市	①町内会等が主体となり「道路への雪出し」や「路上駐車」のバトロールを行っている。②市内大学生が中心となり、小学生、町内会、市と高齢者住宅等の雪かき作業など実施③町内会等が土地所有者との協議を行い空き地を雪押し場として確保している。④町内会等と覚書を交わし、公園を雪押し場として利用している。	無（ただし町内会に対して除雪機械・排雪ダンプの貸出制度有）
札幌市	①地域除雪ボランティアへの支援（除雪用具・小型除雪機の貸出、除雪ボランティアのコーディネート）②企業や店舗による砂まき活動の推進（企業名入り砂箱の設置推進）③冬みち地域連携事業（地域と創る冬みち事業（地域懇談会、意見交換会の実施）、合同バトロール（地域住民と市が「道路への雪出し」や「路上駐車」のバトロール実施）、公園の雪押し場としての活用（地域と市が覚書を結び、利用条件等を定め、公園を地域の雪置き場として活用）	小型除雪機械購入補助（近年の利用実績は無）
函館市	町内会や団体等に小型除雪機械を貸出し、歩道の除雪を行う、スノーボランティアサポートプログラムを実施している。	無
釧路市	「ツルツル路面対策」の一つとして町内会や住民への「砂散布機」の貸出し、散布協力依頼	無
苫小牧市	福祉部総合福祉課が主体となり高齢者宅の雪かきボランティア制度を実施。	無
帯広市	無	①小型除雪機の購入補助②小型除雪機の借上補助③パートナーシップ排雪④町内あき地利用制度
小樽市	①砂まきボランティア制度にて、地域住民が滑り止め材の散布及び清掃を行っている。②町内会等が土地所有者と協議を行い空き地を雪置き場として確保している。	無
江別市	無	自治会排雪支援事業（排雪用大型ロータリ（オペレータ無）・排雪ダンプの貸出し）
北見市	①除雪前に北見地域交通安全活動推進委員協議会が主体となり「違法駐車」の巡回指導を行っている。②町内会等が土地所有者との協議を行い空き地を雪置き場として確保している。	無
千歳市	青年会議所と自衛隊が中心となり、高齢者住宅等の雪かき作業など実施（年1回）	有
室蘭市	除雪モニターとして地域住民に協力して貰い、降雪状況を報告して貰っている。	無
岩見沢市	町内会等が土地所有者との協議を行い空き地を雪押し場として確保している。	地域自主排雪支援制度（大型ロータリ、除雪ドーザ、交通誘導員、機械はオペレータ付）
恵庭市	無	無
石狩市	町内会によっては、迷惑駐車車両にステッカーを貼るなど、啓もう活動を実施している。	協働町内会歩道等除雪助成金
北広島市	市内の高校生、中学生が高齢者住宅等の雪かき作業を実施	有（1/2補助）
滝川市	無	ハンドガイドロータリ貸出し・町内会排雪補助
稚内市	町内会、中高生で高齢者住宅等の雪かき作業	無
名寄市	市内中学生が中心となり、町内会、市と高齢者住宅等の屋根雪降ろし等の作業を実施	町内会を対象として小型タイヤショベルと排雪ダンプの貸出し
留萌市	①除雪に関する地区懇談会の開催。②社会福祉協議会が主体となり、各種団体等のボランティアをつのり登録し、民生委員からの要請により高齢者住宅周辺の雪かき作業など実施	無
富良野市	連合町内会長会議で除排雪作業の理解と協力の呼びかけ	無
深川市	無	有
士別市	除雪業者が土地所有者又は管理者と協議を行い一時堆積場として確保している。	無
砂川市	無	無

(3) 高齢者・身障者への支援

都市名	小型除雪機（ハンドガイド）・移動式融雪機の貸出制度	高齢者・身障者宅前の間口に雪を残さない取組	高齢者・身障者の屋根雪下ろし宅内の通路除雪
旭川市	有・無償（小型除雪機（ハンドガイド）・移動式融雪機の貸出）	①無償・住宅前道路除雪事業（高齢者、身体障害者世帯、要件あり）②高齢者等除雪支援事業（市が協力団体に定額支給）	有・有償 屋根の雪下ろしに対する助成で1世帯15,000円の助成券交付（高齢者・母子・身障者など規定あり）
札幌市	無	無	有・有償 福祉除雪サービス 間口の雪処理及び玄関先までの通路部分の除雪。世帯の課税状況区分により、無料～10,000円
函館市	無	無 間口処理は除雪作業において処理している。	有・無償
釧路市	無	有	有・有償 1回当たり120円、降雪量がおおむね15cm以上、玄関から生活道路までの間を人が通れる幅
苫小牧市	無	無	有・有償
帯広市	無	無	有・有償
小樽市	無	有・無償	有・有償 福祉除雪サービス事業・無償屋根の雪下ろし除雪事業（1万円を限度として助成）
江別市	無	有・有償（社会福祉協議会が窓口）	有・有償（社会福祉協議会が窓口）
北見市	有・無償	無	有・無償
千歳市	有・無償（町内会単位）	無	有・有償 実施している町内会に対し1世帯7,000円（高齢者・身障者の負担はなし）他にシルバーや環境整備組合（除雪業者）に実費負担してやってもらう。
室蘭市	無	有・有償（福祉協議会で実施）	無
岩見沢市	無	有・有償 間口の置き雪処理に対する費用の一部を助成（H30～）。	有・有償 屋根の雪下ろしに要した費用の2分の1以内（上限：1回につき2万円まで2回まで）を助成。（該当する世帯の条件有、H30-年齢条件引き下げ75歳→70歳）
恵庭市	無	有・有償（R3より実施団体が市から福祉協議会に変更）	有・無償
石狩市	有・無償（小型除雪機貸出事業）	無	有・有償 ①ふれあい雪かき運動：町内会など地域ぐるみで協力し合いながら高齢者世帯の除雪の場合、助成金を交付 ②ひとり暮らし高齢者世帯等除雪サービス：除雪が困難なひとり暮らしの高齢者などの自宅の玄関先から公道まで、若しくは窓際などに積もった雪を除雪します。課税状況に応じて自己負担があり。
北広島市	有（小型除雪機）	無（検討中）	有 宅内の通路・間口に対して補助制度有（年配・障害・所得など規定有）
滝川市	有・無償	無	有・有償 福祉除雪ヘルパーサービス事業（①10cm以上積雪時、1回限り玄関から道路までの通路を確保。介護保険料段階に応じて月1,250円～5,000円の自己負担があり。②当サービス利用で家屋倒壊等危険性が高い場合、年に1回限り屋根雪下ろしを行う。ただし、平屋で市内に子が在住していない場合に限る）
稚内市	無（利用者が少ないため、制度廃止）	無	無
名寄市	無	無	有・有償
留萌市	有・無償（移動式融雪機の貸出制度）	無	有・有償 高齢者等の宅内の通路除雪利用者件数約100件
富良野市	無	無	有・有償 除雪ヘルパー派遣事業（緊急時の避難路の確保を主目的に玄関前等の出入口から公道等までの通路）月367円×5ヵ月（11月～3月）=1,835円
深川市	無	有・有償（社会福祉協議会が窓口）	有（社会福祉協議会が窓口）
士別市	無	無	有 世帯の収入額によって無償・有償を判断する。
砂川市	無	無	有・有償

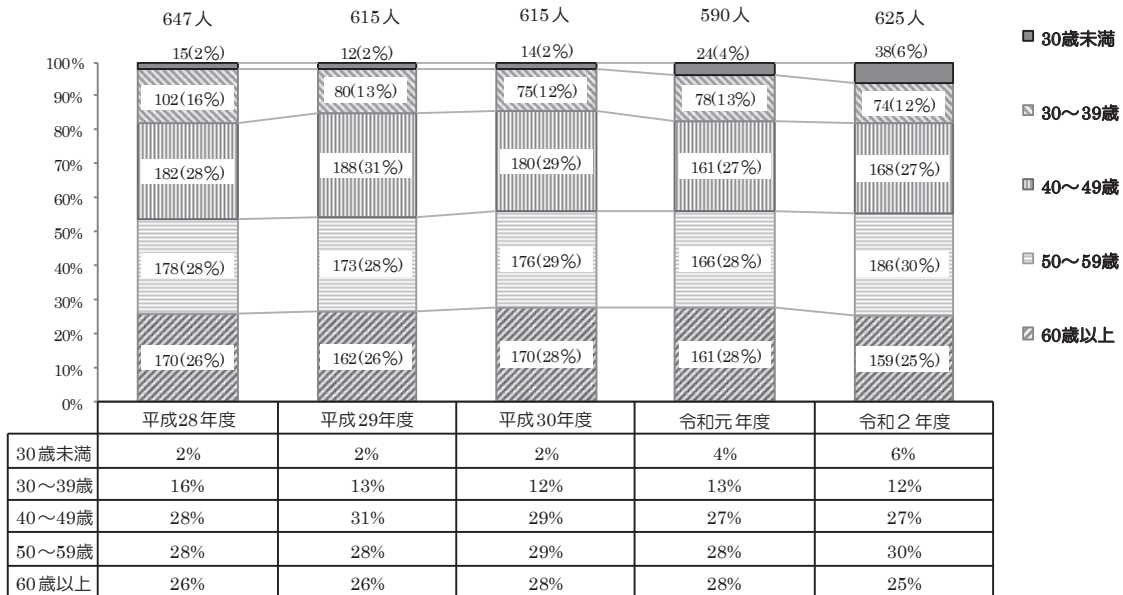
資料— 5

旭川市の除雪企業の現状

5-1 オペレータの年齢構成

年代別でみると除雪車両のオペレータ 30 歳未満は 60 歳以上の 4 分の 1 と、今後離職していく高齢運転手を補うべき若手入職者の数が不十分で、若年層のオペレータの確保が急務となっています。

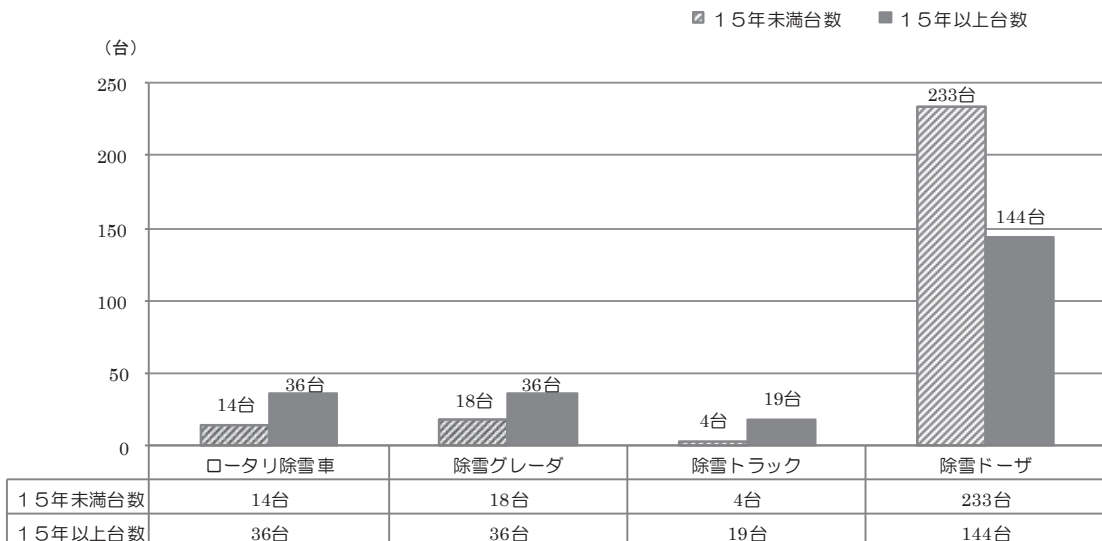
●オペレータの年齢構成



5-2 除雪機械の使用年数

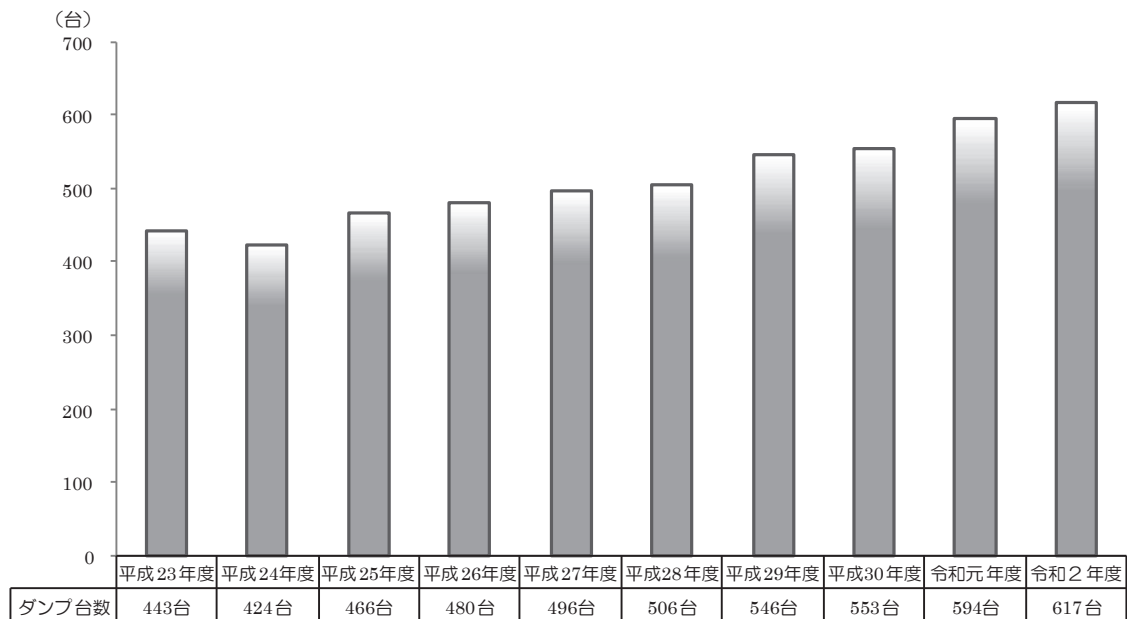
平成 24 年度と比較して除雪機械の更新は進んでいますが、15 年以上使用しているものは未だ多い状況にあります。(令和 3 年度調べ)

●除雪機械の使用年数



5-3 ダンプ車両台数

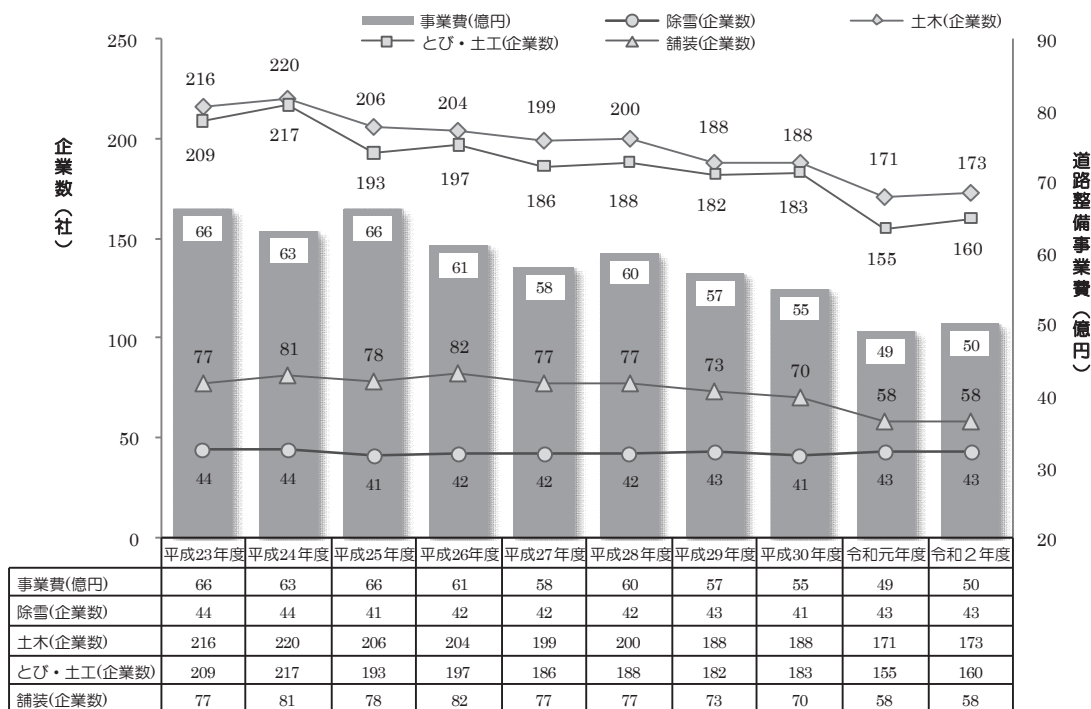
近年、旭川地区トラック協会の登録台数は増加していますが、運転手不足により排雪ダンプトラックの確保は重要な課題となっています。



※一般社団法人 旭川地区トラック協会提供

5-4 旭川市の道路整備事業費と企業数の推移

公共事業の減少に伴い、工事関係企業数も減少しています。



資料—6

アンケート調査

6-1 令和3年度旭川市市民アンケート調査結果

(15) 除雪・排雪体制

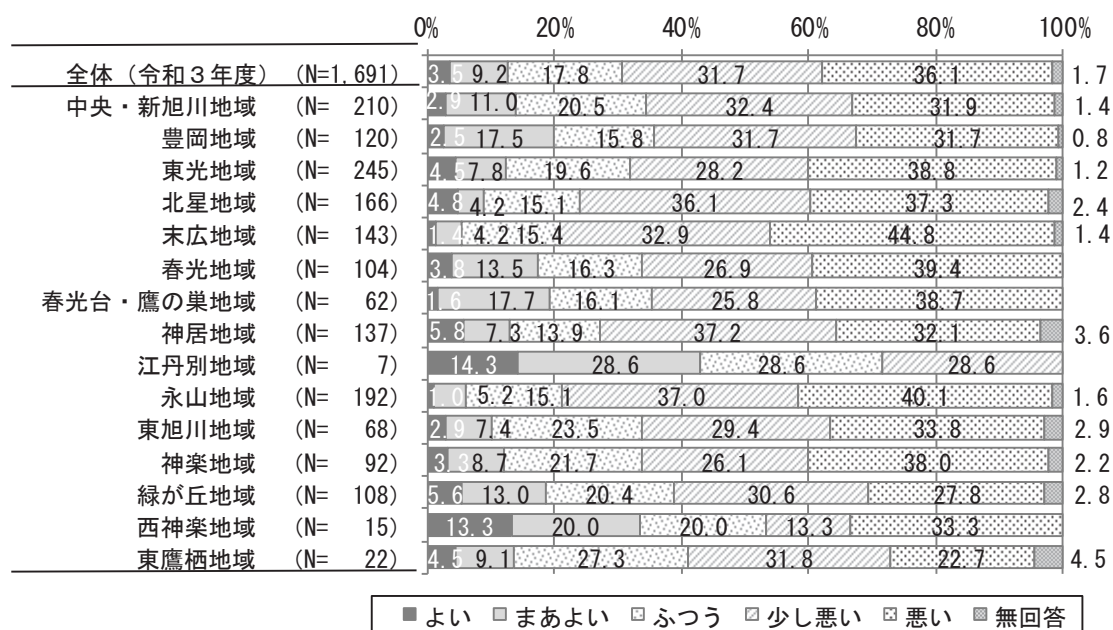
除雪・排雪体制について、全体では、「少し悪い」の31.7%と「悪い」の36.1%を合わせて67.8%が「悪い方」と評価している。

【居住地域別の評価】

居住地域別にみると、「悪い方」が高い地域は、末広地域が77.7%、永山地域が77.1%、北星地域が73.4%となっている。

【過去の調査との比較】

令和元年度調査と比較すると、全体では、「良い方」は1.1ポイント増加し、「悪い方」は3.4ポイント減少している。



【(15) 除雪・排雪体制】(前回〔令和元年度調査〕との比較)

(単位：%)

		よい	まあよい	良い方 (よい+ まあよい)	ふつう	少し悪い	悪い	悪い方 (悪い+ 少し悪い)	無回答
全体	令和3年度 (N=1,691)	3.5	9.2	12.7	17.8	31.7	36.1	67.8	1.7
	令和元年度 (N=1,613)	3.0	8.6	11.6	16.1	35.0	36.2	71.2	1.2
中央・ 新旭川地域	令和3年度 (N= 210)	2.9	11.0	13.9	20.5	32.4	31.9	64.3	1.4
	令和元年度 (N= 184)	4.9	9.2	14.1	21.2	36.4	27.2	63.6	1.1
豊岡地域	令和3年度 (N= 120)	2.5	17.5	20.0	15.8	31.7	31.7	63.4	0.8
	令和元年度 (N= 106)	0.0	11.3	11.3	18.9	35.8	34.0	69.8	0.0
東光地域	令和3年度 (N= 245)	4.5	7.8	12.3	19.6	28.2	38.8	67.0	1.2
	令和元年度 (N= 237)	3.0	6.8	9.8	15.6	38.4	35.0	73.4	1.3
北星地域	令和3年度 (N= 166)	4.8	4.2	9.0	15.1	36.1	37.3	73.4	2.4
	令和元年度 (N= 132)	3.8	7.6	11.4	18.9	33.3	34.8	68.1	1.5
末広地域	令和3年度 (N= 143)	1.4	4.2	5.6	15.4	32.9	44.8	77.7	1.4
	令和元年度 (N= 154)	0.0	5.8	5.8	7.8	34.4	50.6	85.0	1.3
春光地域	令和3年度 (N= 104)	3.8	13.5	17.3	16.3	26.9	39.4	66.3	0.0
	令和元年度 (N= 86)	2.3	8.1	10.4	16.3	40.7	32.6	73.3	0.0
春光台・ 鷹の巣地域	令和3年度 (N= 62)	1.6	17.7	19.3	16.1	25.8	38.7	64.5	0.0
	令和元年度 (N= 45)	2.2	15.6	17.8	11.1	24.4	46.7	71.1	0.0
神居地域	令和3年度 (N= 137)	5.8	7.3	13.1	13.9	37.2	32.1	69.3	3.6
	令和元年度 (N= 160)	4.4	8.1	12.5	13.8	31.9	38.8	70.7	3.1
江丹別地域	令和3年度 (N= 7)	14.3	28.6	42.9	28.6	28.6	0.0	28.6	0.0
	令和元年度 (N= 7)	0.0	42.9	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0
永山地域	令和3年度 (N= 192)	1.0	5.2	6.2	15.1	37.0	40.1	77.1	1.6
	令和元年度 (N= 199)	1.0	7.5	8.5	8.5	31.7	49.2	80.9	2.0
東旭川地域	令和3年度 (N= 68)	2.9	7.4	10.3	23.5	29.4	33.8	63.2	2.9
	令和元年度 (N= 74)	6.8	14.9	21.7	31.1	33.8	13.5	47.3	0.0
神楽地域	令和3年度 (N= 92)	3.3	8.7	12.0	21.7	26.1	38.0	64.1	2.2
	令和元年度 (N= 90)	3.3	3.3	6.6	17.8	37.8	36.7	74.5	1.1
緑が丘地域	令和3年度 (N= 108)	5.6	13.0	18.6	20.4	30.6	27.8	58.4	2.8
	令和元年度 (N= 92)	4.3	6.5	10.8	16.3	40.2	32.6	72.8	0.0
西神楽地域	令和3年度 (N= 15)	13.3	20.0	33.3	20.0	13.3	33.3	46.6	0.0
	令和元年度 (N= 11)	18.2	9.1	27.3	27.3	27.3	18.2	45.5	0.0
東鷹栖地域	令和3年度 (N= 22)	4.5	9.1	13.6	27.3	31.8	22.7	54.5	4.5
	令和元年度 (N= 25)	8.0	20.0	28.0	20.0	36.0	16.0	52.0	0.0

6-2 令和元年度除排雪に関するアンケート調査結果

目的 雪対策基本計画の計画期間の中間年を迎え、基本計画策定後の経済情勢や社会情勢の変化に伴う除排雪に関する市民ニーズの現状を把握し、基本計画の評価・検証の参考とする。

実施期間 令和元年9月20日から令和元年10月15日まで

調査対象 地区除雪連絡協議会会員の町内会長、地域まちづくり推進協議会の委員、民生委員児童委員協議会の会長

回答率 62.1% (980件/1,578件)

HP公表 本資料編には、一部地区別の回答を省略して掲載しており、全編は本市ホームページ上に公表しています。

URL : <https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/440/448/449/d069513.html>

地区除雪連絡協議会について

【質問 1】

あなたの町内会の除雪連絡協議会はどちらの地区ですか？

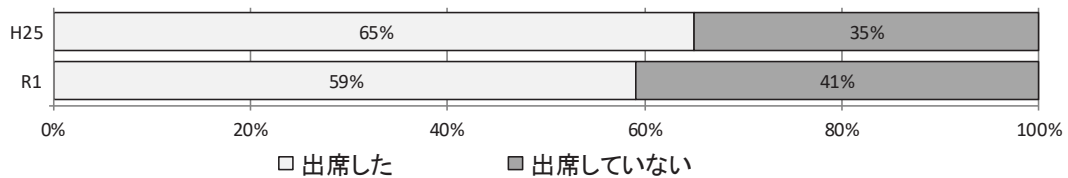
地区名	H25		R1		回答率	
	調査数	回答数	調査数	回答数	H25	R1
全体	1,239	939	1,578	980	75.8%	62.1%
豊岡・東旭川		162	193	137		71.0%
東光		110	161	116		72.0%
神楽・緑が丘・西神楽		127	225	144		64.0%
神居		89	145	80		55.2%
中央・新旭川		138	266	130		48.9%
北星・江丹別		82	159	100		62.9%
春光・春光台・鷹の巣		92	156	104		66.7%
末広・東鷹栖		58	125	71		56.8%
永山		81	148	98		66.2%

令和元年度の調査は、平成25年度調査で依頼した地区除雪連絡協議会の会員のほか、地域まちづくり推進協議会の委員、各地区の民生児童委員協議会の会長にも調査を依頼したことにより、調査数が増加しています。

平成25年度調査と比べ、回答率が14%低下しました。
除雪事業への関心の薄れが懸念される結果となりました。

【質問 2】

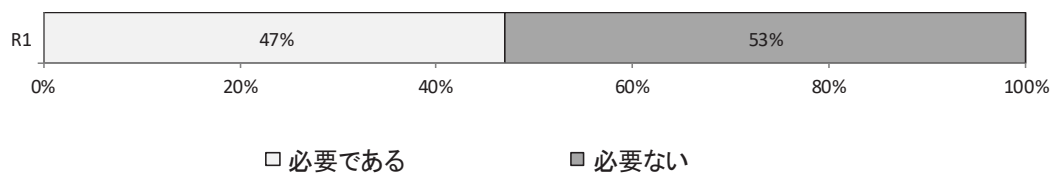
お住まいの地区の地区除雪連絡協議会に、昨年度又は今年度に出席されましたか？



平成25年度調査と比べ、「出席した」と回答された割合が低下しています。地区除雪連絡協議会の出席率も年々低下しており、アンケートの回答と同様に除雪事業への関心の薄れが懸念されます。

【質問 3】

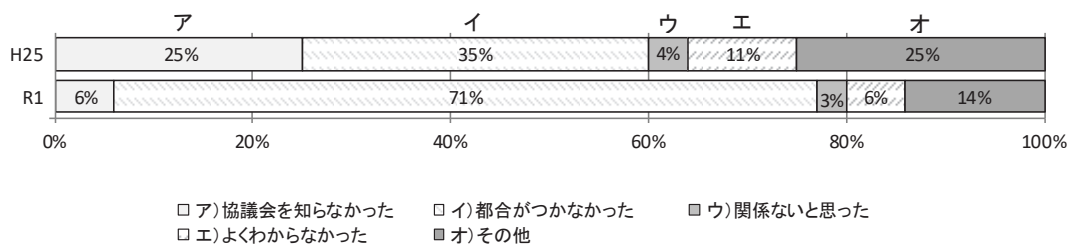
質問2で、「出席した」と答えられた方にお尋ねします。毎年11月に開催している総会以外に今年度は7月に臨時会を開催しましたが、今後も臨時会の開催が必要だと思いますか？



臨時会の必要性は意見が分かれる結果となりました。

【質問 4】

質問2で、「出席していない」と答えられた方にお尋ねいたします。出席されなかった理由は何ですか？

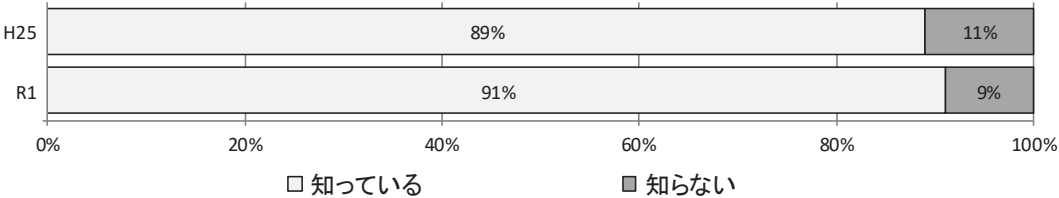


「ア）協議会を知らなかった」と回答された方の割合が減り、認知度が上がっています。一方で「イ）都合がつかなかった」と回答された方が71%にのぼり、開催方法や周知期間に課題があったと考えられます。

旭川の除排雪について

【質問 5】

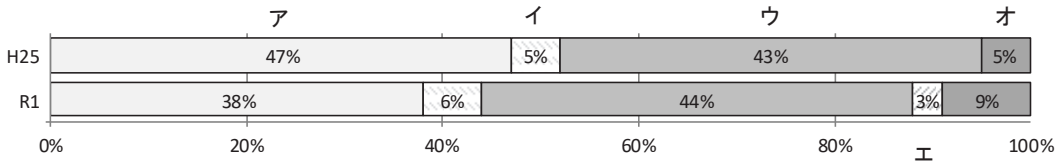
旭川市では、幹線道路と生活道路とに大別して、それぞれの役割に応じた除排雪水準で取り組んでいます。このことをご存じですか？



平成25年度調査、令和元年度調査共におよそ9割の方が「知っている」と回答し、除排雪の方法や水準が認知されていることが分かりました。

【質問 6】

質問 5 で「知っている」と答えられた方にお尋ねします。あなたは、それをどのようにして知りましたか？



- ア)市や除雪センターの担当者に聞いた
- イ)知人から聞いた
- ウ)こうほう旭川市民「あさひばし」等
- エ)旭川市のHP
- オ)その他

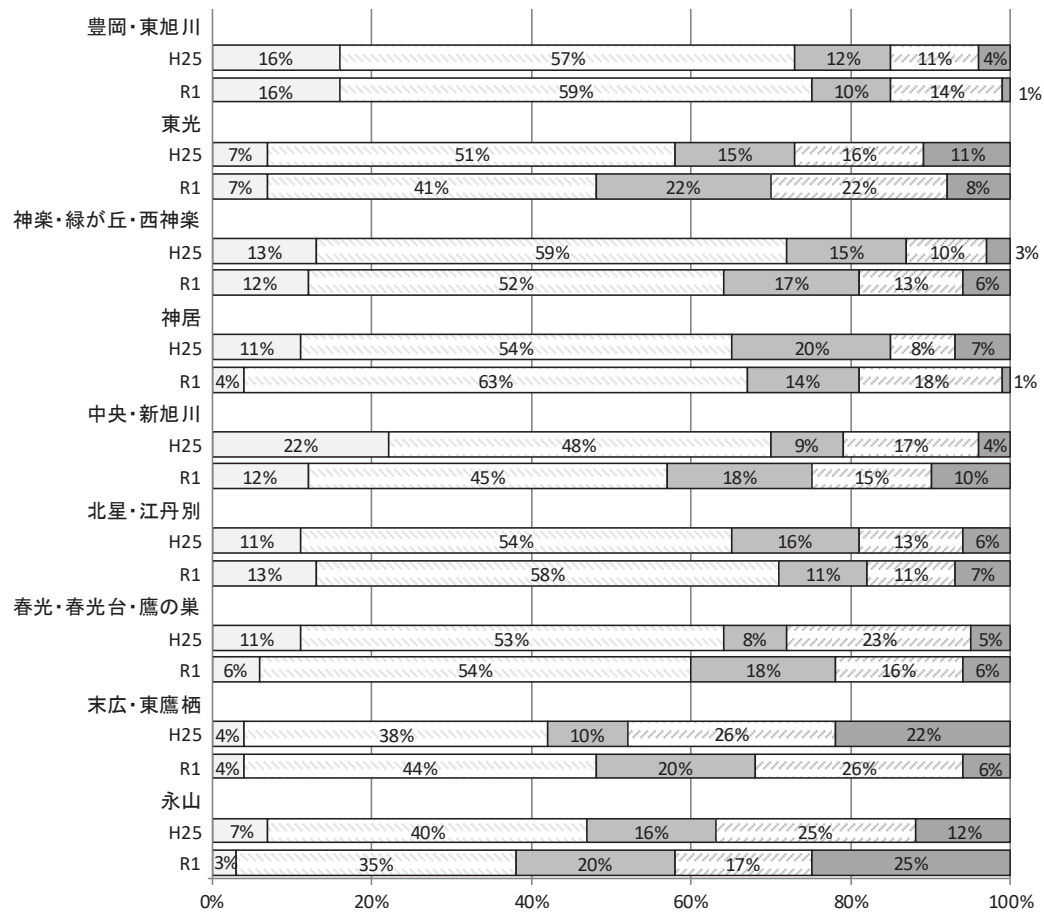
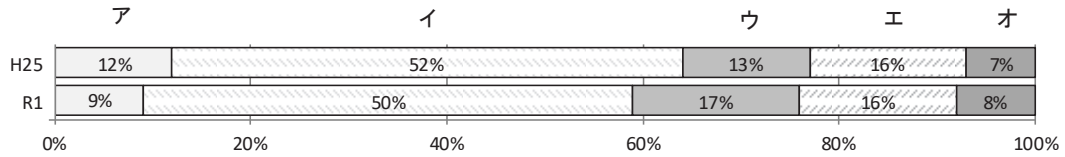
「ア）市や除雪センターの担当者から聞いた」「ウ）こうほう旭川市民「あさひばし」等」の回答が多く、地区除雪連絡協議会の開催やこうほうの全戸配布の継続が有効であることが分かりました。

※平成 25 年度調査時は「エ）旭川市のHP」を選択肢に入れていません。

【質問 7】

お住まいの地区の「幹線道路」の車の走りやすさは、どう思いますか？

<全体の結果>



□ア)良い □イ)おおむね良い □ウ)どちらとも言えない □エ)やや悪い □オ)悪い

「ア)良い」「イ)おおむね良い」の回答が59%となり、幹線道路における満足度は、やや高い評価を受けています。

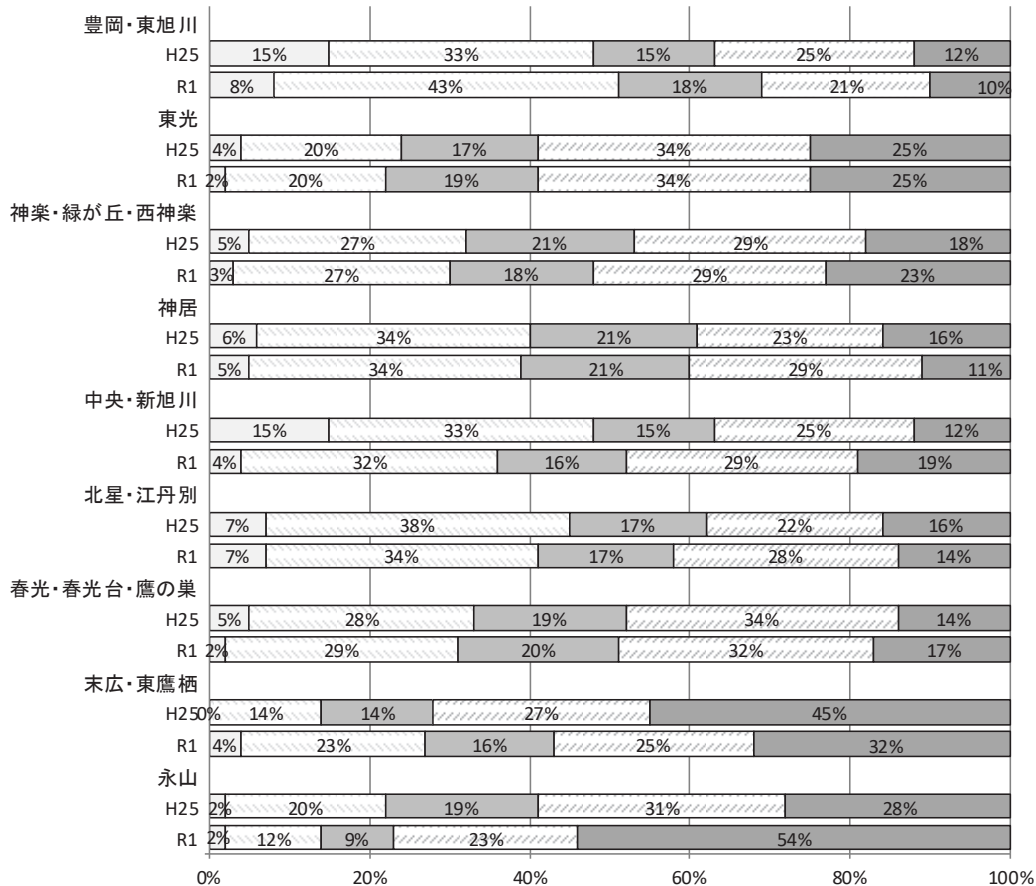
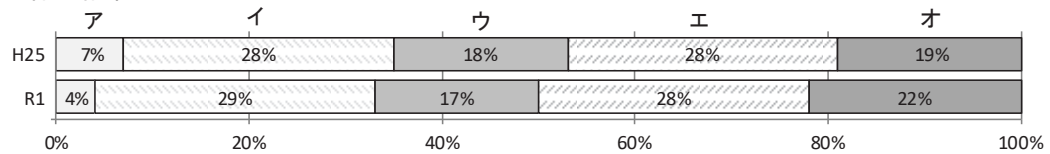
地区別では、「豊岡・東旭川」「北星・江丹別」の2地区で「ア)良い」「イ)おおむね良い」が7割を超える一方で、「永山」では「オ)悪い」「エ)やや悪い」の回答が4割を超えました。

平成25年度調査と比較すると、「北星・江丹別」「末広・東鷹栖」の評価が上がり、「神楽・緑が丘・西神楽」「中央・新旭川」「春光・春光台・鷹の巣」「永山」の評価が下がりました。

【質問 8】

お住まいの地区の「生活道路」の車の走りやすさは、どう思いますか？

<全体の結果>



□ア)良い □イ)おおむね良い □ウ)どちらとも言えない □エ)やや悪い □オ)悪い

「オ）悪い」「エ）やや悪い」の回答が50%となり、生活道路においては、あまり良い評価を受けていません。

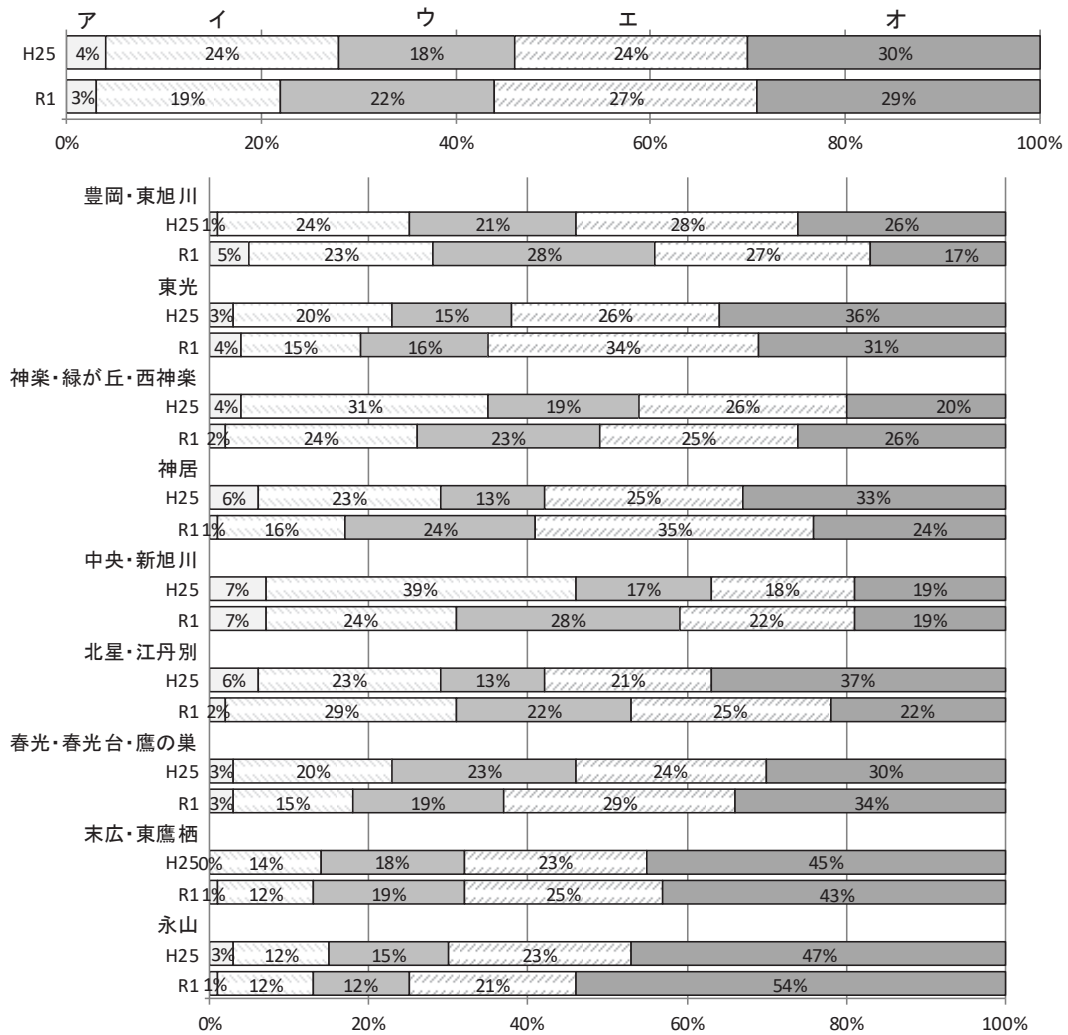
地区別では、「豊岡・東旭川」のみ「ア）良い」「イ）おおむね良い」が5割を超える一方で、「オ）悪い」「エ）やや悪い」との回答が、「東光」「神楽・緑が丘・西神楽」「末広・東鷹栖」で、5割を超えているほか、「永山」では7割を超える結果となりました。

平成25年度調査と比較すると、「豊岡・東旭川」「末広・東鷹栖」の評価が上がり、「神楽・緑が丘・西神楽」「神居」「中央・新旭川」「春光・春光台・鷹の巣」「永山」で評価が下がりました。

【質問 9】

お住まいの地区の「歩道」の歩きやすさは、どう思いますか？

<全体の結果>



□ア)良い □イ)おおむね良い □ウ)どちらとも言えない □エ)やや悪い □オ)悪い

「オ)悪い」「エ)やや悪い」の回答が56%となり、歩道の除排雪はあまり良い評価を受けていません。

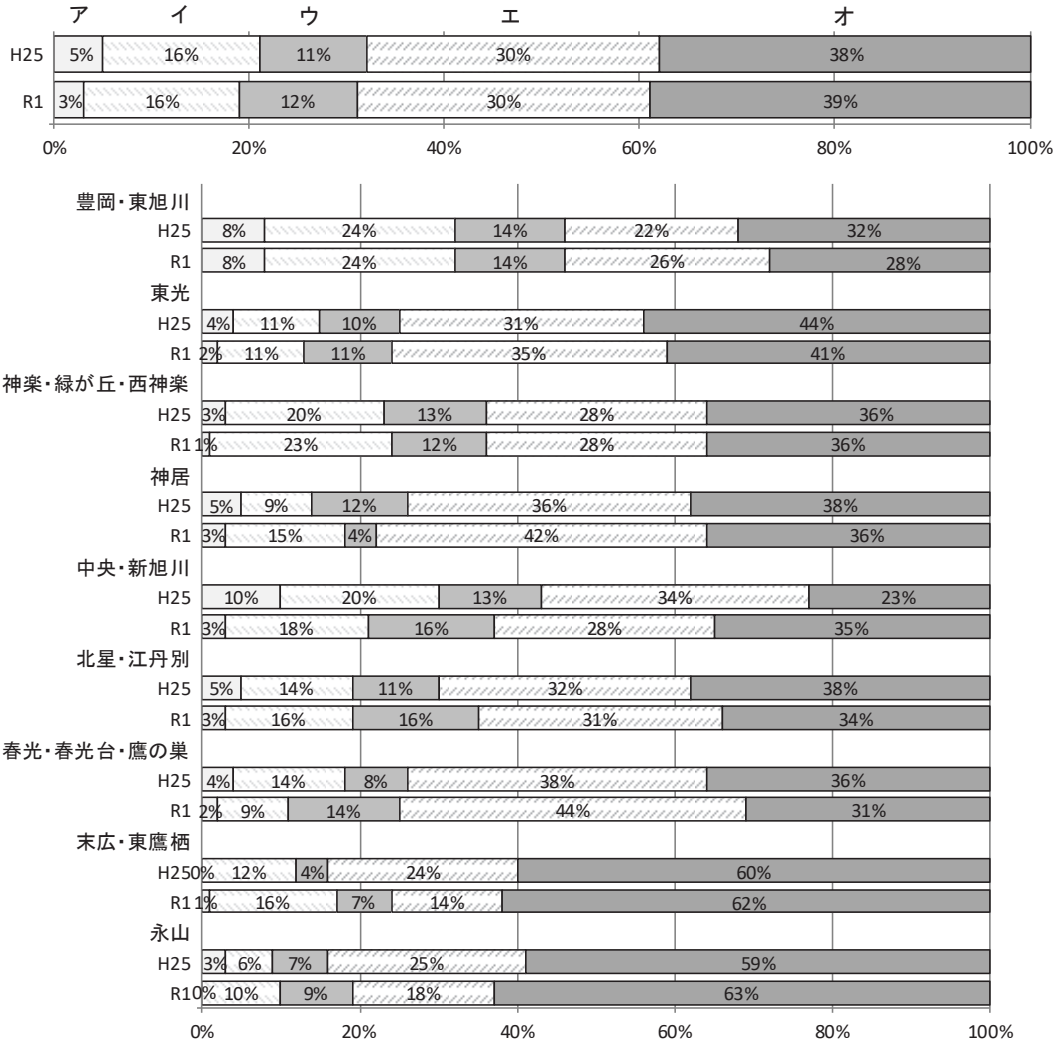
地区別では、「オ)悪い」「エ)やや悪い」との回答が、「東光」「春光・春光台・鷹の巣」「末広・東鷹栖」で6割を超えているほか、「永山」では7割を超える結果となっています。

平成25年度調査と比較すると、「豊岡・東旭川」「北星・江丹別」の評価が上がり、「神楽・緑が丘・西神楽」「神居」「春光・春光台・鷹の巣」「永山」で評価が下がりました。

【質問 10】

お住まいの地区の「交差点の見通し」について、どう思いますか？

<全体の結果>



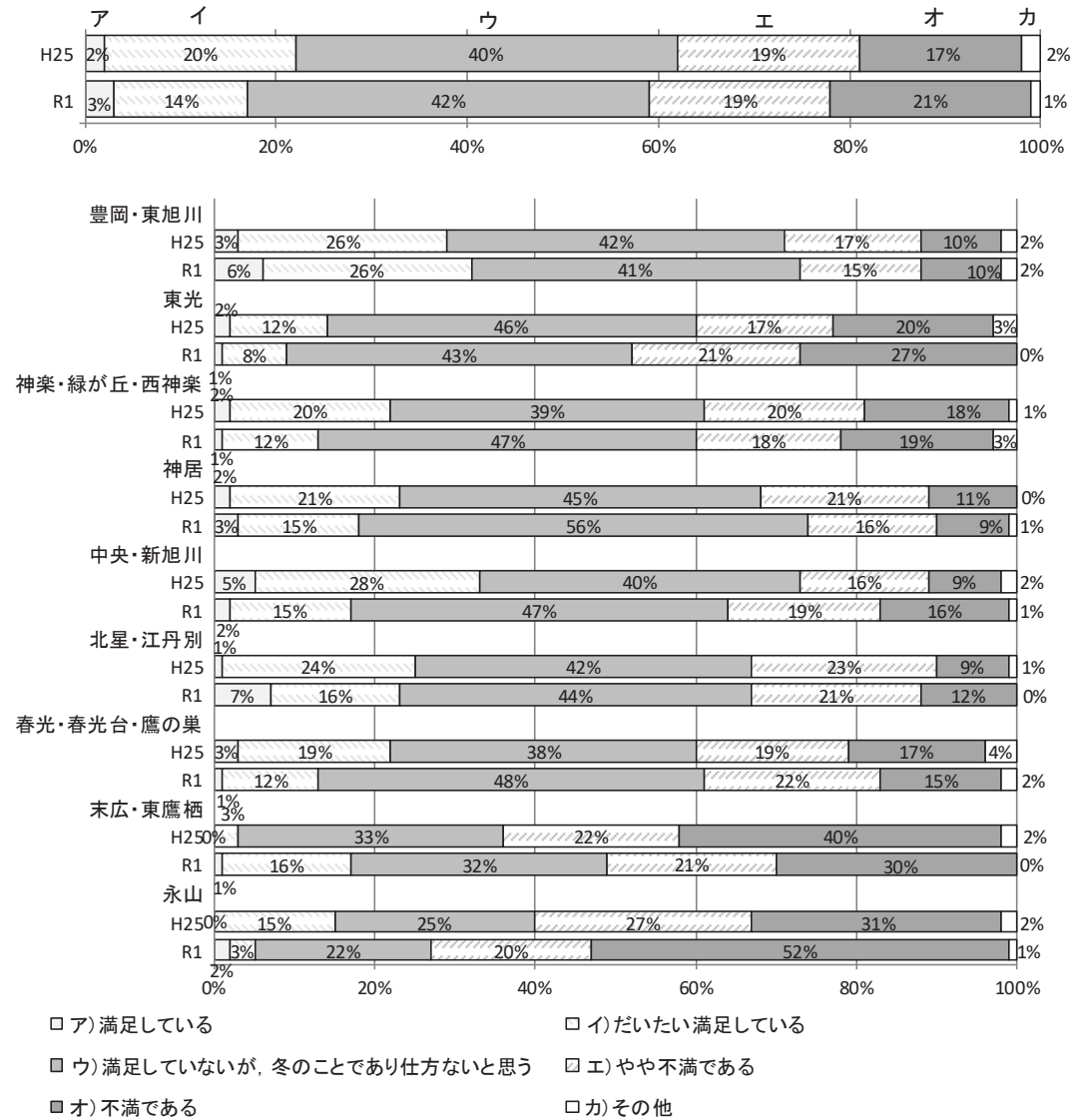
□ア)良い □イ)おおむね良い □ウ)どちらとも言えない □エ)やや悪い □オ)悪い

「オ）悪い」「エ）やや悪い」の回答が69%となり、非常に低い評価を受けています。地区別では、「オ）悪い」「エ）やや悪い」との回答が、「東光」「神居」「春光・春光台・鷹の巣」「末広・東鷹栖」で7割を超えているほか、「永山」では8割を超える結果となっています。平成25年度調査と比較すると、「末広・東鷹栖」の評価が上がり、「東光」「中央・新旭川」「春光・春光台・鷹の巣」で評価が下がりました。

【質問 11】

お住まいの地区の除雪状況を総合的に見て、どう思いますか？

<全体の結果>



「ウ」満足していないが、冬のことであり仕方ないと思う」との回答が42%と最も多く「ア」満足している」と答えた方はわずか3%でした。

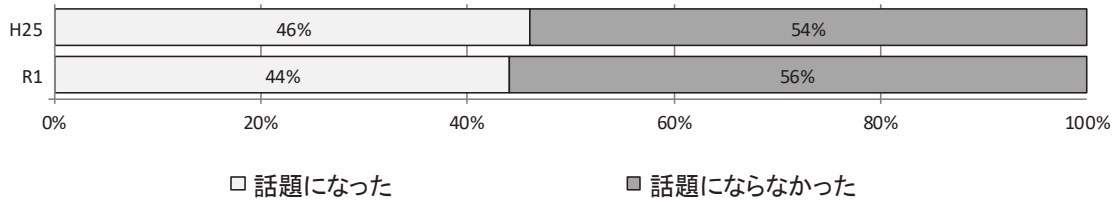
地区別では、「ア」満足している」「イ」だいたい満足している」との回答が、「豊岡・東旭川」で3割を超える一方で、「オ」不満である」「エ」やや不満である」との回答が、「末広・東鷹栖」で5割を超えているほか、「永山」では7割を超える結果となっています。

平成25年度調査と比較すると、「豊岡・東旭川」「神居」「末広・東鷹栖」の評価が上がり、「東光」「神楽・緑が丘・西神楽」「中央・新旭川」「北星・江丹別」「春光・春光台・鷹の巣」「永山」では評価が下がりました。

除排雪のマナーについて

【質問 12】

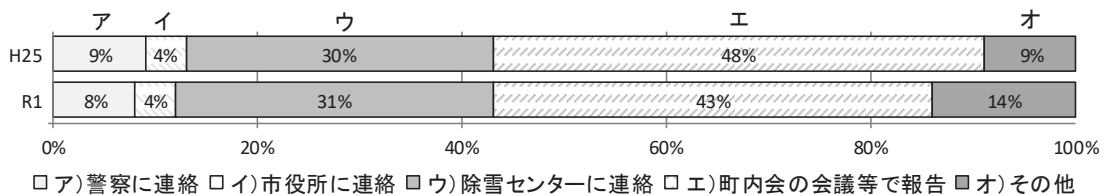
「路上駐車」や「雪出し」による交通の妨げなどについて、あなたの町内会で話題になったことはありますか？



「話題になった」との回答が44%となり、平成25年度調査と比べて大きな変化はありませんでした。

【質問 13】

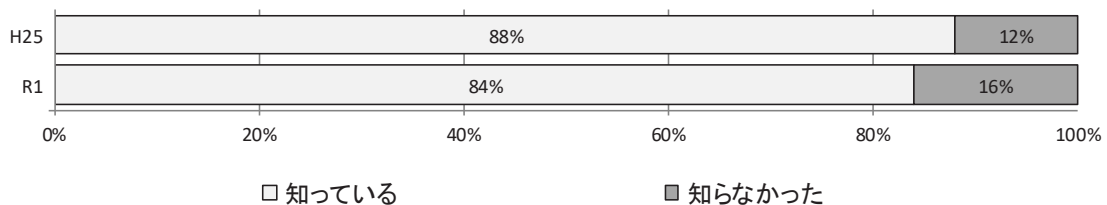
質問 12 で 「話題になった」と答えた方にお尋ねします。 どのような対応をされましたか？



平成25年度調査、令和元年度調査共に「ウ）除雪センターに連絡」よりも「エ）町内会の会議等で報告」が多く、地区の問題について情報共有を図っていることが分かりました。

【質問 14】

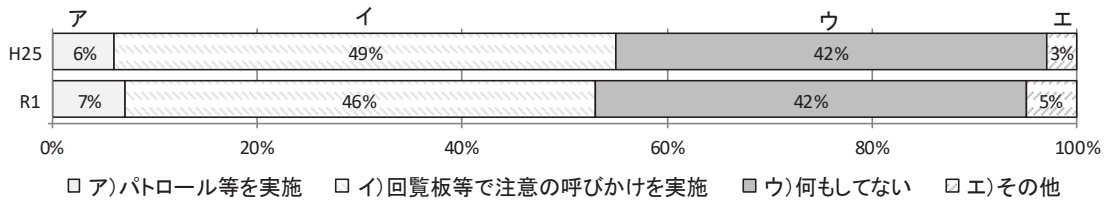
「雪出し」は、道路法や道路交通法という法律で禁じられていることをご存じですか？



84%の方が法律で禁じられていることを知っていますが、認知度が低下している地区もありますので、路上駐車や雪出し禁止のチラシ配布などにより、継続した周知が必要と考えられます。

【質問 15】

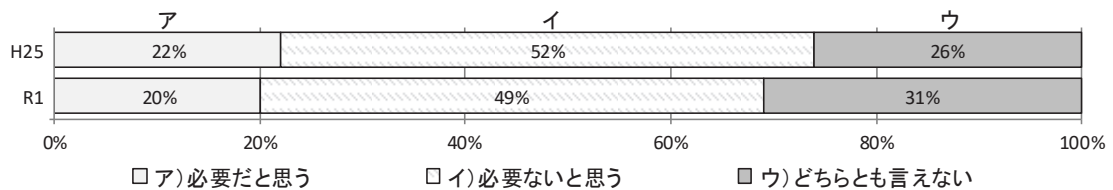
「路上駐車」や「雪出し」について、あなたの町内会で何らかの取り組みをしたことはありますか？



法律で禁じられていることは認識しているものの、「イ)回覧板等で注意の呼びかけを実施」や「ウ)何もしていない」の割合が大きく、地域でのパトロール等はあまり行われていないことが分かりました。

【質問 16】

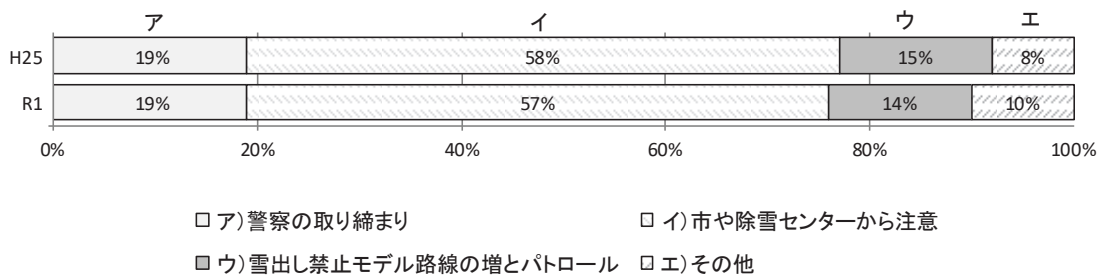
除雪連絡協議会の各地区において「雪出し禁止モデル路線」を1路線設定し、「市民・旭川市・除雪業者」の合同パトロールを行っています。あなたの町内会でも、「雪出し禁止モデル路線」を設定する必要があると思いますか？



本市の取組として協力をお願いしていますが、「ア)必要だと思う」という回答が最も少ない結果でした。

【質問 17】

「雪出し」について、今後どのような対応をしていくことが望ましいと思いますか？

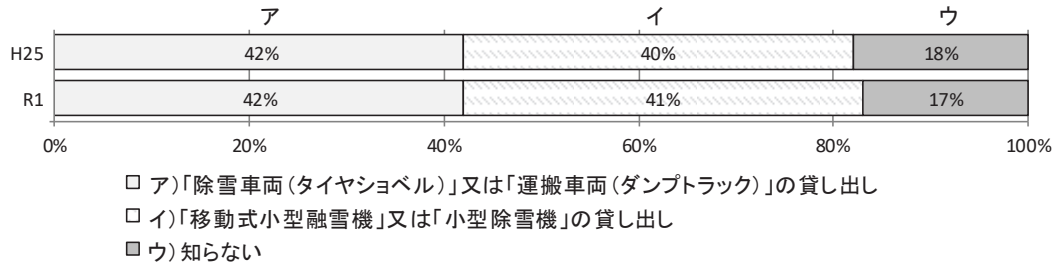


質問13の結果から、地区の問題について情報共有を図っていることが分かりましたが、雪出しへの対応については「イ)市や除雪センターから注意」が57%と最も多く、平成25年度調査から変化が見られないため、市や除雪センターによる取組の強化が求められていることが分かりました。

協働・ボランティアについて

【質問 18】

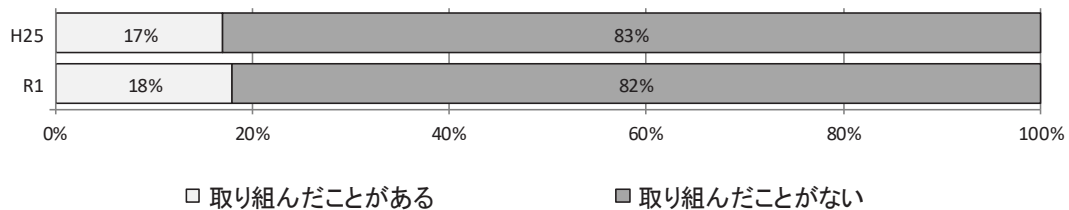
町内会やボランティアへの除雪作業援助制度や雪処理機器の無償貸し出し制度について、知っているものを選んでください。



平成25年度調査と同様の結果でした。
8割の方が制度を知っていることが分かりますが、2割の方が知らないと回答しており、今後も継続した周知が必要と考えられます。

【質問 19】

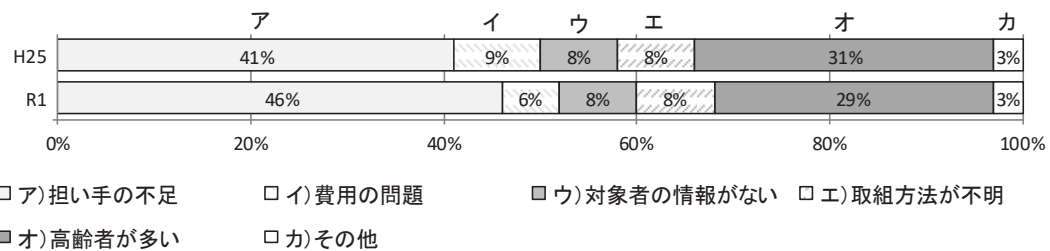
あなたの町内会で、除排雪のボランティアや協働に取り組んだことはありますか？



82%の方が「取り組んだことがない」と回答しており、平成25年度調査と変化がなく、ボランティアや協働について、全市的な広がりが少ないことが分かりました。

【質問 20】

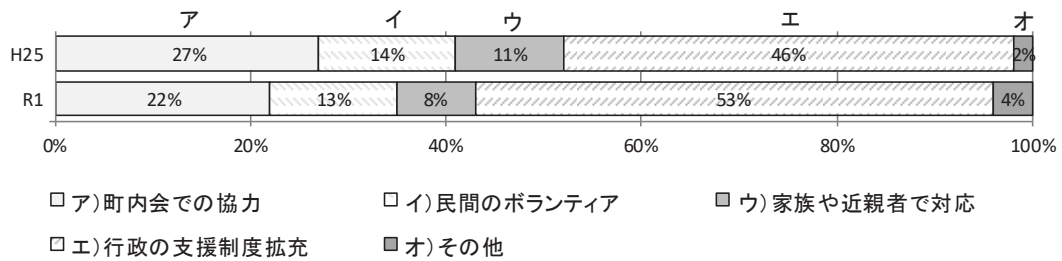
あなたの町内会で、協働や高齢者などの除雪ボランティアを行う場合、最も大きな課題は何であると考えていますか？



「ア)担い手の不足」「オ)高齢者が多い」という回答が多く、町内会の協働やボランティアを実施するに当たり、人材の不足が大きな課題であると感じている方が多いことが分かりました。

【質問 21】

今後、少子高齢社会の進展に伴い、除雪の担い手不足が懸念されますが、どのような対策が最も望ましいと考えますか？

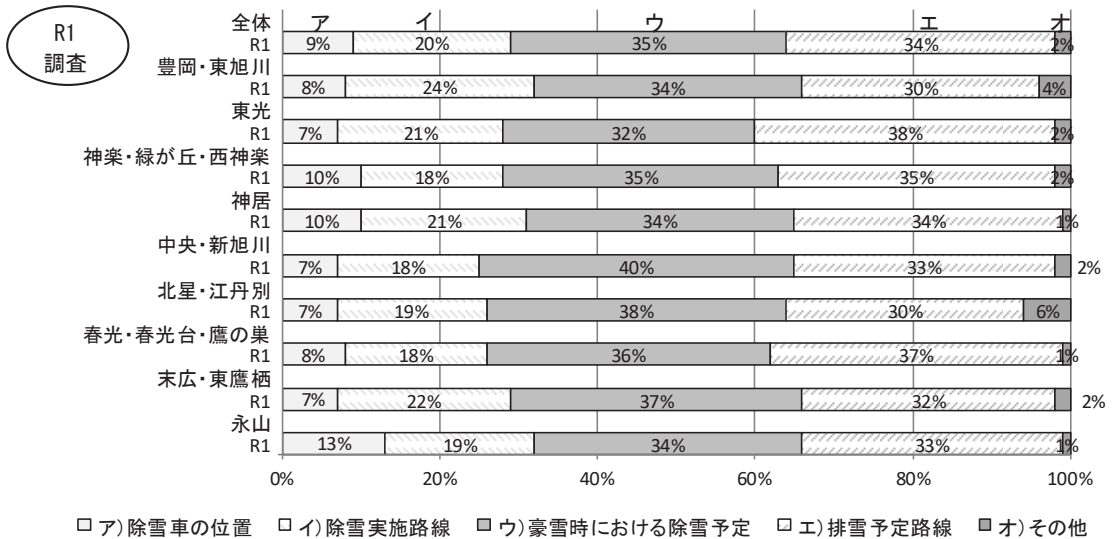
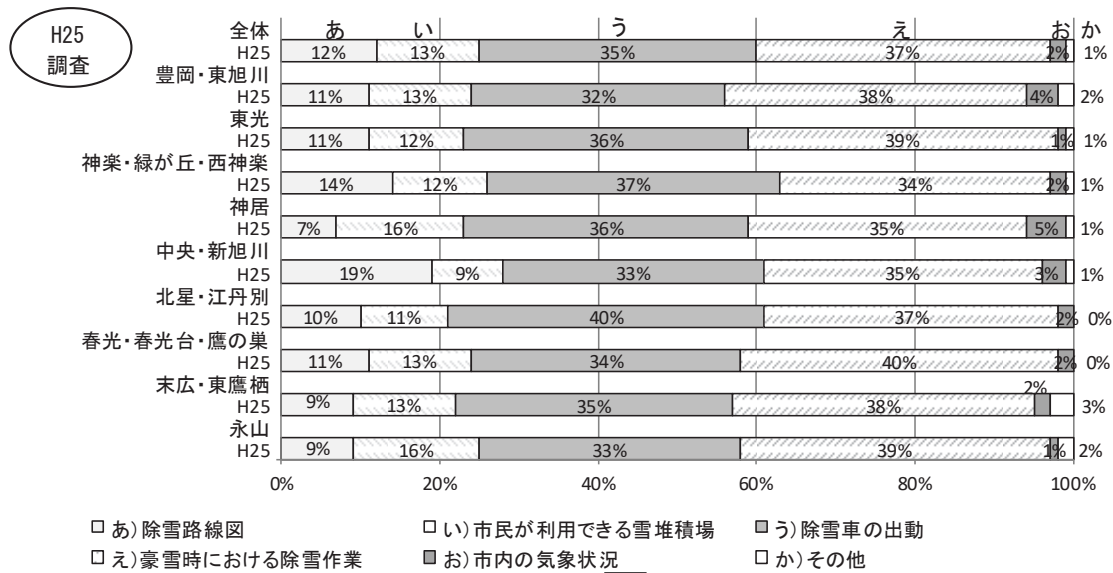


「ア）町内会での協力」「ウ）家族や近親者で対応」は平成25年度調査と比べて減少の傾向であり、地区の高齢化に伴う対応の難しさが表れています。
また、「エ）行政の支援制度拡充」が最も多く、平成25年度調査と比べて増加の傾向であり、行政への期待の高まりが分かりました。

これからの旭川の除排雪について

【質問 22】 複数回答

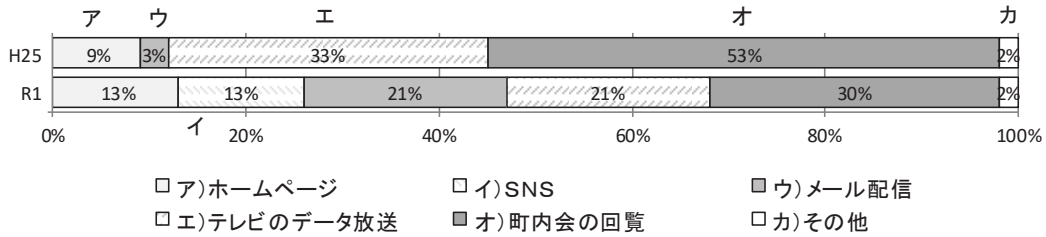
旭川市はこれまで、ホームページやこうほう旭川市民「あさひばし」などで、除雪路線図や市民が利用できる雪堆積場、除雪車の出動状況に関する情報を提供していますが、さらには、どのような情報の提供を希望しますか？



平成25年度調査は、「う) 除雪車の出動」「え) 豪雪時における除雪作業」の回答が多い結果でした。
 令和元年度調査は選択肢を変更しましたが、平成25年度調査同様「ウ) 豪雪時における除雪予定」「エ) 排雪予定路線」が多く、交通障害を引き起こす豪雪や排雪に関わる情報が求められていることが分かりました。

【質問 23】

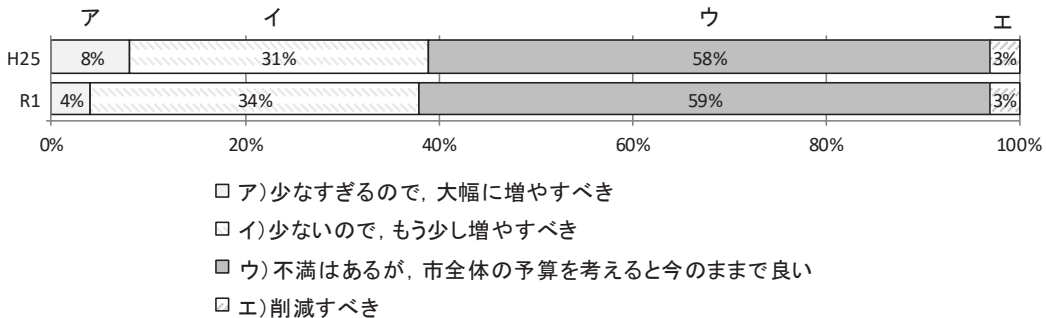
今後の情報提供は、どのような情報媒体に、力を入れていくことが望ましいと思いますか？



「オ）町内会の回覧」が最も多い回答ですが、平成25年度調査と比べると減少しており、様々な媒体からの情報提供が求められていることが分かりました。

【質問 24】

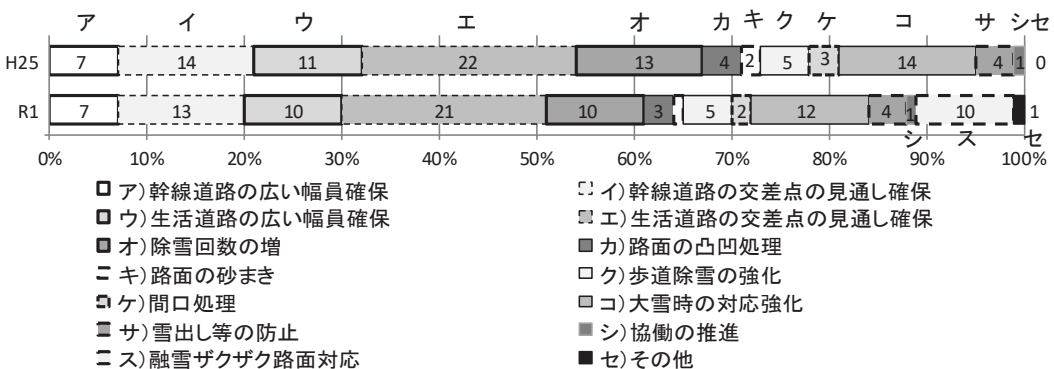
市内の人口が多い10都市を比べると、旭川市は市民一人当たりが負担している除雪費用は、4番目に多い状況ですが、現在の約30億円という除雪予算についてどう考えますか？



平成25年度調査と同様に「ウ）不満はあるが、市全体の予算を考えると今のままで良い」が59%と最も多く、次いで「イ）少ないので、もう少し増やすべき」が34%と多い結果となりました。気象の変化や労務・資材単価の上昇などにより、除排雪予算が増加傾向ですが、現状予算規模での除排雪の質の向上を望まれている方が多いことが分かりました。

【質問 25】

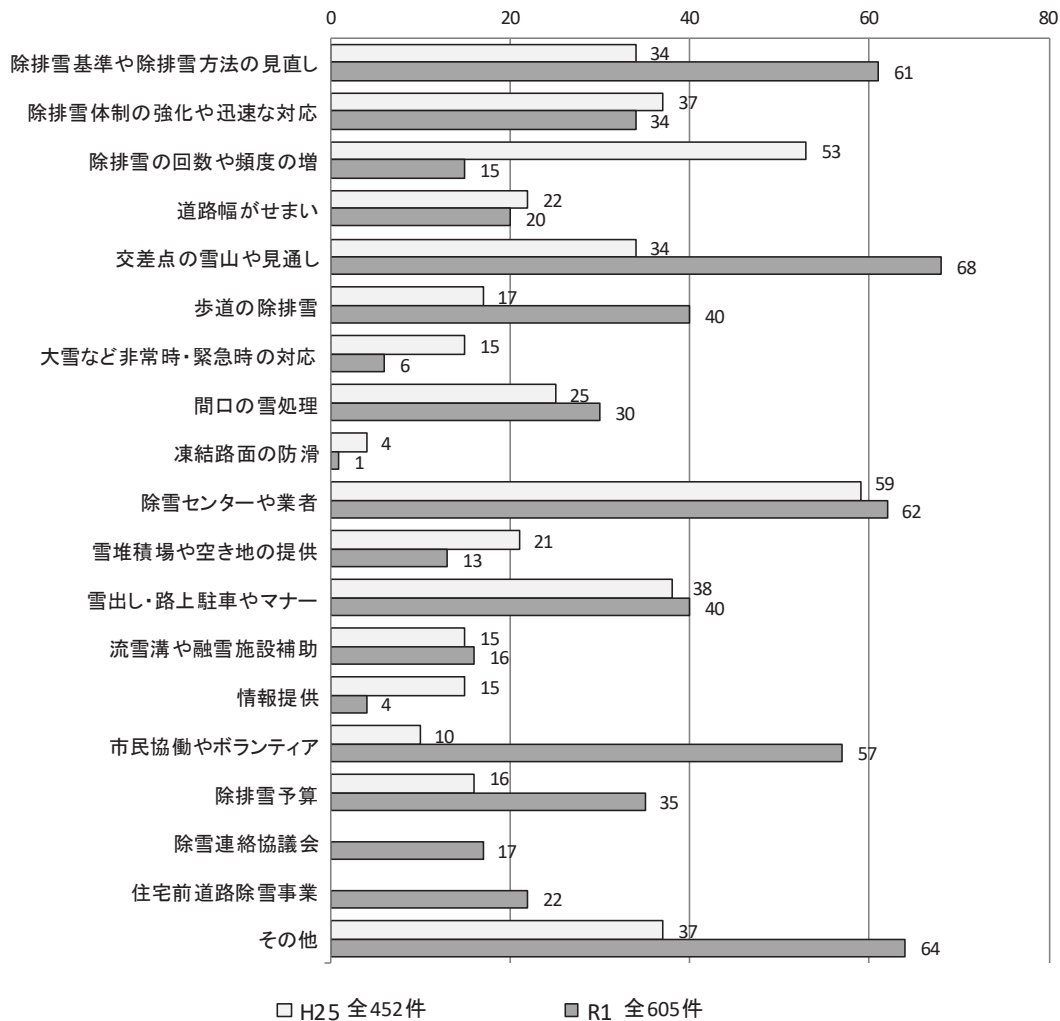
除雪の予算が限られ、担い手の不足から除雪体制の維持に懸念がある中、除排雪の何を選択して優先的に予算を投じていくべきだと考えますか？



「イ、エ）交差点の見通し確保」との回答が最も多く、引き続き今後の重要課題として、検討しなければなりません。次いで「コ）大雪時の対応強化」となっています。「ア、ウ）幅員確保」や「オ）除雪回数の増」、「ス）融雪ザクザク路面对応」も多く、市民生活に直接影響する除排雪の作業に関する事を最優先とするよう求められています。

【質問 29】 自由意見

除排雪など雪対策全般について皆様のご意見などがありましたらお聞かせください。



自由意見では様々な意見がありました。平成25年度調査では「除雪センターや業者」に関する意見が最も多く、除雪センターへの不満や地域によって除雪に差があるなどの意見が多くあったのに対し、令和元年度調査では「交差点の雪山や見通し」に関する意見が最も多く、交差点の排雪強化について多くの意見を頂きました。

また、平成25年度調査と令和元年度調査を比べ最も増えた項目は「市民協働やボランティア」に関する意見であり、高齢化や担い手不足により実施困難であるとの意見が約4割、協働実施済や実施していきたいとの前向きな意見が約3割ありました。

このほか、「除排雪基準や除排雪方法の見直し」についての意見も多く、生活道路において除排雪基準が守られていないなどの意見がありました。

意見数は平成25年度調査と比べて3割程増えており、回答率が低下する中、たくさんの意見が寄せられました。

6-3 雪対策基本計画の各取組の評価・検証（平成27年度～令和元年度）

本計画の折り返しを迎える令和元年度に、これまでの取組の評価・検証を行い、今後の方向性を決めました。

施策	内容	関連する主な取組と目標	評価	方向性	取組項目（改定後）	
1 快適な冬期道路ネットワークの確保 1/4	1-1 安定した除排雪体制の確保					
	(1) 企業の除雪事業への参入意欲の促進					
		目標	除雪企業数 42社から増加 (R1)43社<達成>	達成	完了	
		除雪業務の通年化と複数年契約		効果あり	継続	通年契約の継続と検証、複数年契約の検討 ○H26通年契約導入、複数年契約導入調査（メリット認識・業務履行の不安） ⇒夏維持業務増加の検討、契約手法の検討 新たな体制についての企業の意向調査と検証 ○除雪企業の体力低下、除雪企業の減少（増えない） ⇒持続可能な除雪体制の検討、除雪事業への参入意欲の促進 ◎R2:地区の統合試行（3地区） 再委託条件の緩和の継続と検証 ○R1:除雪センターの運営を除く業務について再委託できるよう見直し ⇒R1:除排雪業務の再委託業者7社参入
		除雪業務の最低補償制度の充実		効果あり	拡充	最低補償制度の検討 新たな最低補償制度の継続と検証 ○降雪の多少に関係なく労務費や車両の維持費など固定経費が必要 ⇒少雪でも対応可能で持続可能な除排雪体制を確保していくため見直し必要 ⇒除排雪業務における企業のリスク軽減、受注継続、新規参入の環境整備 ◎R2:最低補償の見直し実施 諸経費率や積算・積算手法の見直しの検討 ○採算性の悪化、作業実態に合わせた見直し、国や北海道との格差是正要望 ⇒限られた予算の中で一部見直し・検討。GPS導入による実態把握
		除雪業務の入札参加企業への受注機会の拡充		効果あり	継続	総合評価方式での発注（建設工事等） 総合評価方式での発注数の拡大 ○公共事業の減少→夏の事業量不足、除雪企業の経営基盤の弱体化 ⇒経営の安定化必要 ◎R2:総合評価一般競争入札の導入（地域貢献型）
	(2) 除雪企業への除雪車両の貸与					
		目標	ロータリ除雪車の貸与地区数 9地区 (R1)9地区<達成>	達成	見直し	目標 除雪グレーダの貸与台数 (R1)6台 ⇒ (R6)13台
		除雪車更新計画の策定		効果あり	拡充	目標 除雪トラックの貸与台数 (R1)4台 ⇒ (R6)6台
		貸与車両の充実				除雪車両等更新計画に基づく更新や増車と貸与
		除雪企業での確保が難しいロータリ除雪車の貸与				更新状況に応じた除雪車両等更新計画の見直し ○中古車、リースが市場になく、高額な除雪車両の購入や更新、維持費が高額 ⇒除雪企業の負担を軽減するため、必要最低限の除雪車両を市が購入し貸与 ⇒交付金を活用し購入、配当率低く計画の先送りが続いている、予算確保が課題 ◎R2:除雪グレーダ1台購入(計画2台)、R1:25台保有→R6まで34台(R4計画)
	(3) 近郊の雪堆積場の確保					
		近郊の雪堆積場の確保		効果あり	継続	市有地の活用の検討 公園や河川敷の雪堆積場としての活用の検討 河川管理者や関係団体との協議 民間遊休地の雪堆積場としての活用の検討と土地所有者との協議 ○雪堆積場の不足、排雪ダンブやオペレータ不足 ⇒運搬距離短縮による作業効率の向上を図る取組→市街地近郊の雪堆積場確保
	(4) 次世代への除雪技術の継承					
		目標	オペレータの年齢40歳未満の割合 25% (R1)17%	未達成	見直し	目標 オペレータの年齢40歳未満の割合 (R1)17% →(R6)26%
	除雪企業における若年層の招聘・定着の促進		効果あり	継続	運転免許助成制度・オペレータ表彰・オペレータ講習の継続と検証、更新取組の検討 ○オペレータの減少・高齢化、H21:724→R1:590→H39(推定):467 ⇒オペレータ表彰の実施（H29に16人、H30に1人、R1に4人） ⇒運転免許取得費用助成制度導入（R1に6人） 夜間や休日作業など作業形態の見直しの検討と検証 ○少子高齢化社会の進展や働き方改革への対応など（時間不規則）	
	熟練オペレータの除雪技術の継承		効果あり	継続	除雪機械作業講習の受講推進と助成検討 ○熟練オペレータの高齢化、若年層の入職減少、次世代への技術継承が課題 ⇒除排雪業者ネットワーク協議会がオペレータ講習会を開催 ◎日本建設機械施工協会主催の除雪機械技術講習会の積極的受講を促す ICT活用の検討	

施策	内容	関連する主な取組と目標	評価	方向性	取組項目（改定後）	
1 快適な冬期道路ネットワークの確保 2 / 4	1-2 効果的かつ効果的な車道除雪の推進					
	(1) 道路機能に応じた除雪水準の設定					
		道路機能や役割に応じた除雪水準の設定	達成	拡充	道路環境の変化に合わせた路線の修正	
		道路機能別の除雪水準の見直し	達成			
	(2) 除雪出動基準の設定					
		道路機能にあった効果的かつ効果的な除雪出動基準の設定	達成		出動基準に基づく適切な作業の実施と出動基準の検証	
		多様な降雪状況に応じた除雪出動基準の設定	達成		多様な降雪状況に応じた除雪の検証と検討 ○早朝除雪は降雪の時間帯により作業量や作業時間に限界あり ⇒早朝除雪の手法の検証と検討が必要 ◎朝方の降雪に対応する学校周辺の早朝除雪の意識付けを強化	
	(3) 除雪管理基準の設定					
		道路機能にあった効果的かつ効果的な除雪管理基準の設定	達成		圧雪管理の検証と検討 ○気象変動などによりザクザク路面発生の頻度が増加 ⇒H26に圧雪管理の厚さを見直し（50センチ→30センチ）	
		時期に応じた幅員管理基準の設定	達成		拡幅除雪の検証と幅員確保の手法の検討 ○バス通りなど幹線道路の幅員確保が困難な場合に渋滞が発生 ⇒R1からロータリ除雪車による幹線道路の拡幅除雪を導入 ◎幹線道路の拡幅除雪の継続的実施と検証（R2）	
	4) 交差点における雪処理の強化					
		幹線道路における交差点付近の幅員確保	効果あり		継続	幹線道路の交差点排雪の実施と検証
		生活道路における交差点の見通し確保	効果あり	交差点45度カットの実施と検証 ○除雪作業の際に雪の置き場がなく交差点付近に雪を積まざるを得ない状況 ⇒大雪時などは排雪作業が間に合わず交差点の対応が不十分 ◎排雪作業時に交差点45度カットの徹底		
		生活道路における新たな排雪手法の取組	効果あり	交差点排雪の強化の実施と検証		
	5) 除雪作業の管理強化による作業精度の向上					
		GPSによる作業精度の向上	効果あり	拡充	GPS試行の拡張と本格導入 ○除雪作業の管理強化と事務の効率化、作業状況の可視化 ⇒除雪車両にGPS機能を有する端末を搭載し位置情報や作業時間を把握 ◎3地区に試行的に135台を導入し検証（R2）	
		市職員による除雪モニタリング	効果あり	拡充	モニタリングの拡大検討 モニタリングの市職員への拡大	
	6) 除雪センターの強化					
		除雪センターの強化	効果あり	継続	地区間の応援体制の制度化の継続と検証	
		要望の処理体制の強化	未達成	継続	要望のデータベース化と要望処理体制の検討 ○市民からの苦情要望の対応に追われ除雪センターの本業業務に支障を来す ⇒苦情要望処理のデータベース化と処理体制の強化 ◎苦情要望処理システムの導入 新たな要望処理体制の実施	
	7) 除雪業務評価制度の充実					
		除雪業務評価への市民参加	効果あり	拡充	除雪業務評価の市民参加の拡充の検討	
		除雪業務評価制度による技術力向上	効果あり		除雪業務評価制度の継続と検証 企業表彰の導入 企業表彰の継続と受賞者インセンティブの検討	
	1-3 歩道・通学路の安全確保					
	(1) 歩道除雪路線の選定基準の設定					
		歩道除雪路線の選定基準の設定	達成	拡充	道路環境の変化に合わせた歩道除雪路線の修正	
	(2) 歩道除雪における出動基準と管理基準の設定					
	歩道除雪における出動基準と管理基準の設定	達成	狭幅員に対応可能な歩道除雪手法の検討			
	多様な降雪状況に応じた除雪出動基準の設定	達成	1-2-(2)に同じ 管理基準に基づく適切な作業の実施と管理基準の検証			
(3) 学校周辺など通学路の安全確保						
	学校周辺など通学路の除排雪の強化	達成	継続	通学路の除排雪の強化の継続 ○H27から3学期の始業式前の全線歩道除雪と通学路排雪を実施 ⇒R1から卒業式前の全線歩道除雪と通学路排雪を追加		
	学校周辺など通学路除雪の優先	効果あり		学校周辺の定義について学校との協議 ○学校周辺の歩道除雪路線や排雪路線と学校が指定する通学路の不整合		
	通学路における地域ぐるみの安全対策の推進	未達成		多様な降雪状況における通学路除雪の優先の継続 地域ぐるみの安全対策の推進		
(4) 協働による歩道・学校周辺の防凍						
	沿線住民による砂散布体制	効果あり	継続	地域除雪活動等を含む協働による砂散布体制の継続と推進		
	学校を主体とした通学路の砂散布体制の推進	効果あり		歩道や学校周辺の砂散布状況や箇所検証		

施策	内容	関連する主な取組と目標	評価	方向性	取組項目（改定後）
1 快適な冬期道路ネットワークの確保 3 / 4	1-4凍結路面対策				
	(1)ロードヒーティングの設置基準の設定				
		ロードヒーティングの設置基準の設定	達成	継続	ロードヒーティング設置基準の検証と検討
		効率的かつ効果的なロードヒーティングの整備	効果あり	継続	ロードヒーティング設置基準に基づく整備
	(2)ロードヒーティングの更新計画の策定				
		目標 経過年数が15年（耐用年数）未満のロードヒーティング施設の割合 70%（R1）36%	未達成	新規	目標 令和元年度改定ロードヒーティング更新計画に基づく更新箇所数（R1）5箇所 →（R6）累計29箇所
		ロードヒーティング更新計画の策定	効果あり	継続	ロードヒーティング更新計画に基づく更新 更新状況に応じたロードヒーティング更新計画の見直し ○老朽化が進行、交換部品の製造中止、予算不足で計画に遅れ ⇒交付金を活用（H28に1箇所、H29なし、H30に1箇所、R1なし、R2に1箇所） ⇒R1から公共施設等適正管理推進事業債を活用（R1に5箇所、R2に5箇所）
	(3)防凍材の散布				
		防凍材の散布・清掃体制の強化	効果あり	継続	防凍材の効果的な散布と効率的な清掃の実施
	1-5雪処理施設の確保				
	(1)雪処理施設の配置計画の策定				
		目標 雪処理施設の受入可能量 毎年750万㎡確保	達成	継続	目標 雪処理施設の受入可能量 毎年750万㎡確保
		大雪時にも対応可能な計画撤入量750万㎡の確保	効果あり	拡充	○これまで750万㎡は確保しているがH24、H29には搬入実績775万㎡を記録 ⇒土地利用等の動向に左右されない雪処理量の確保 ◎R2牛朱別川河川敷地の雪堆積場整備 市内各地にバランスのとれた雪堆積場の確保 雪処理施設配置計画の見直しの検討 ○配置に偏りがあり地区内の雪を地区内で処理することが困難 ⇒地区ごとの充足率に応じた配置計画の見直し ○市民に開放する雪堆積場の確保やバランスのとれた配置が困難 ⇒雪処理施設配置計画に基づく雪処理施設の確保 雪処理施設配置計画の見直し
		効率的かつ効果的な雪堆積場の配置			
		配置計画策定の基本的な考え方			
	(2)恒久的な雪処理施設の整備・更新				
		恒久的な雪処理施設の計画的な整備・更新	効果あり	継続	恒久的な雪処理施設の整備・更新 ○公園や河川の整備、遊休地の土地利用により今後の雪堆積場の確保が困難 ⇒費用対効果を踏まえた雪堆積場整備の検討 ◎春光台市営住宅跡地の雪堆積場利用の検討
		都市部における工場排熱を利用した雪処理施設の整備	未達成		次期清掃工場の熱利用の検討 ○雪処理に必要な熱源の十分な確保が必要 ⇒H27～次期清掃工場の熱利用の検討、H29融雪ポテンシャル調査実施
	(3)民間遊休地の活用				
		民間雪堆積場の拡充	効果あり	継続	民生活提案型雪堆積場の拡充 ○民生活提案型雪堆積場の依存率が高い、提案者との協議が難航する場合あり ⇒R1は7箇所209万㎡（全体堆積量の27%） ◎R2は1箇所増の8箇所198万㎡（全体堆積量の26%） 民間遊休地の雪堆積場としての活用の検討と土地所有者との協議 ○民有地借上による長期活用の確約がなく将来的に不透明 ⇒中央橋通雪堆積場の借上（H28、12～R1、11に3年長期契約、R1、12～単年契約） ◎R2にバルブ町雪堆積場の試行運用 雪堆積場として農地（休耕地）活用の検討
	(4)流雪溝・消流雪水導入事業の推進				
		流雪溝の有効利用の推進	効果あり	継続	流雪溝・消流雪水施設の利用促進 ○施設老朽化、維持更新費用の負担増、空き家増加や高齢化による利用率の低下
		消流雪水導入事業の推進	効果あり		流雪溝土木施設更新の検討 消流雪水施設（東光川工区）の整備に向けた協議
	(5)地域の雪押し場の確保				
		目標 雪押し場の確保数 77箇所（R1）79箇所<達成>	達成	完了	
		目標 雪押し場としての公園利用数 1箇所から増加（R1）225<達成>	達成	完了	
	地域の雪押し場の確保	効果あり	継続	雪押し場として空き地利用の条件等の整理 雪押し場の確保 ○地域が確保しても除雪企業が活用できない又は活用しにくい場合あり ⇒除雪企業が活用できる雪押し場の条件の整理	
	雪押し場としての公園利用	達成		雪押し場として未利用の公園の検証 未利用町内会への利用促進	
(6)宅地内の雪処理施設の普及					
	家庭用雪処理施設の普及	効果あり	拡充	市民ニーズの把握と普及に向けた啓発活動 住宅雪対策補助制度の実施 ○市民ニーズが高く交付件数を申込数が大きく上回る状況 ⇒市民ニーズの把握と財源の確保、効果的な周知方法の検討 ⇒R1に交付件数を増加（200件→400件） ◎R2は交付件数を500件に増加したが少雪の影響もあり314件	

施策	内容	関連する主な取組と目標	評価	方向性	取組項目（改定後）
----	----	-------------	----	-----	-----------

1 快適な冬期道路ネットワークの確保 4 / 4	1-6 暴風雪や豪雪への備え				
	(1) 豪雪時除雪体制の構築				
		平時からの関係機関との連携	達成	継続	防災訓練等の参加
		豪雪時の雪堆積場の緊急確保	達成		豪雪時の雪堆積場の緊急確保 ○計画量750万㎡を超える雪害時などには雪堆積場が不足 ⇒河川雪堆積場の嵩上げや公共遊休地など緊急雪堆積場の確保が必要 ◎緊急雪堆積場9箇所まで50万㎡確保（R2）
		災害時の応援体制の確保	達成		協力団体の拡充を検討
		緊急除雪路線網図の整備	達成		緊急除雪路線網図の更新
		暴風雪や地吹雪時の対応			
		暴風雪・地吹雪対応マニュアルの策定	達成	継続	暴風雪・地吹雪対応マニュアルに基づく対応 ○暴風雪時には通行止めなど迅速な対応と周知が必要 ⇒暴風雪・地吹雪対応マニュアルの周知とマニュアルに基づく対応
		平時の意識啓発	未達成		意識啓発のチラシ/配布・ホームページ等掲出
	(3) 市民や関係機関との情報共有体制の構築				データ放送やホームページ、SNSによる緊急的な情報発信
		市民へのリアルタイムの情報提供	効果あり	継続	道路維持連絡協議会の継続と連携強化
		各道路管理者や消防、公共交通機関との連携	達成		消防との連携強化
	4) 気象情報システム導入の検討				
		気象情報システム導入の検討	効果あり	継続	既存の気象情報システムの活用 ○暴風雪の発生は局地的な場合も多く予測が困難 ⇒冬期道路気象予測システムの活用
	5) 豪雪時における地域除雪活動の検討				
	暴風雪や豪雪時の地域除雪活動	未達成	継続	暴風雪や豪雪時における地域除雪活動の手法の検討	

2 市民協働の推進と除雪マナーの向上 1 / 2	2-1 地域総合除雪体制の充実				
	(1) 地域総合除雪体制の推進				
		目標：地区除雪連絡協議会の出席率 60% (R1)34%	未達成	継続	目標：地区除雪連絡協議会の出席率 (R1) 34% ⇒ (R6) 60%
		地区除雪連絡協議会の活性化	効果あり	継続	総合除雪連絡協議会と地区除雪連絡協議会の運用見直し 総合除雪連絡協議会と地区除雪連絡協議会の開催
	(2) 除排雪計画における市民参画の推進				
		除排雪計画における市民参画の推進	未達成	継続	除排雪計画における市民参画の推進
	(3) 地区除雪連絡協議会と地域まちづくり推進協議会との連携				
		地域まちづくり推進協議会との連携	効果あり	継続	地域まちづくり推進協議会との連携
		地域総合除雪体制の地区割り見直し	達成		
	2-2 市民協働による地域除雪活動の推進				
	(1) 市民協働による地域除雪活動の推進				
		目標：地区除雪連絡協議会の出席率 2団体から増加 (R1)4団体<達成>	達成	完了	
		市民・企業・行政の役割分担の明確化	達成	継続	地区除雪連絡協議会などでの取組の紹介 ○高齢化による担い手不足 ⇒高齢化に対応した地域除雪活動の在り方の検討 ◎取組拡大に向けた仕掛けが必要
		地域除雪活動の推進	達成		
	(2) 地域除雪活動への支援制度の充実				
		助成金による支援制度の導入	効果あり	継続	助成金による支援制度の推進 除雪に特化した支援制度の協議と検討 ○除雪に特化した支援制度は現在なし ⇒市民活動課や地域まちづくり課の制度の中で活動している団体あり
		既存の支援制度の充実	未達成	継続	既存の支援制度の検証と拡充 ○気象状況にもよるが利用は低迷、シャベルとダンブ両方の貸出要望あり ⇒市民がより使用しやすい制度となるよう市民ニーズを踏まえた検討
		除雪車貸出制度	未達成		
	(3) 冬みち市民パトロールと冬みちマップの作成				
		冬みち市民パトロールの実施	効果あり	継続	雪出し・路上駐車禁止パトロールの継続 取組方法や内容の検討
		冬みちマップの作成	未達成		既存の危険箇所マップの検証と危険箇所の抽出、除排雪作業への反映
	(4) 地域除雪活動による雪押し場の確保				
		地域除雪活動による雪押し場の確保	効果あり	継続	1-5-(5)に同じ
	(5) 地域除雪活動による防滑作業				
		地域除雪活動による歩道・学校周辺の砂散布	効果あり	継続	1-3-(4)に同じ
2-3 除雪マナーの向上					
(1) 戦略的な広報活動の推進					
	通年における広報活動の充実	達成	継続	啓発記事の掲載 啓発パンフレットやチラシの作成 データ放送やホームページ、SNSによる情報提供	
	世代ごとに広報ツールを充実	効果あり		○広報誌やホームページ、チラシの回覧を実施、町内会未加入世帯への周知 ⇒世代ごとに適した広報ツールの活用の実施 ◎R2から除雪マナーについて市長からの動画メッセージをSNSで発信	

施策	内容	関連する主な取組と目標	評価	方向性	取組項目（改定後）	
2 市民協働の推進と除雪マナーの向上 2/2	②市民意識の啓発活動の推進					
		目標 除雪教室開催回数 11回 (R1)4回	未達成	完了		
		除雪教室・出前講座の開催	未達成	継続		除雪教室など出前講座の継続
		除雪見学会やフォーラムの開催	効果あり			雪問題に対する市民の理解向上
		③警察と連携した道路への雪出しや路上駐車のパトロールによる指導				
		目標 冬みちパトロール回数 27回 (R1)6回	未達成	継続	目標 冬みちパトロール回数 (R1)6回 ⇒ (R6)27回	
		冬みちパトロールなど地域除雪活動と連動した取組	効果あり			2-2-(3)に同じ
		警察との連携	効果あり	継続		警察と連携したパトロール強化の継続と連携手法の検討 ○重機による雪出しなど悪質なマナー違反者への対応、警察との連携 ⇒雪出しや路上駐車が法で禁じられていることは認識している ◎悪質な場合には警察と連携、市民向けの仕掛けが必要
	2-4雪対策における情報発信の推進					
		(1)市民に分かりやすい表現方法の工夫				
		市民に分かりやすい表現方法の工夫	効果あり	継続		写真・イラスト・動画などの活用 DVDの更新 新たなDVDのホームページ掲載や貸出し
		(2)誰もが情報を入手できるような情報媒体の多重化の推進				
	情報媒体の多重化の推進	達成	継続		2-3-(1)に同じ	
	暴風雪時におけるリアルタイムの情報発信	効果あり	継続		1-6-(3)に同じ 通行止めなど交通規制の情報発信	
	(3)ソーシャルメディアの活用					
	ソーシャルメディアの活用	未達成	継続		2-3-(1)に同じ	
	(4)除雪作業の可視化					
	除雪作業の可視化	効果あり	継続 拡充		2-3-(1)に同じ GPSデータの情報発信の検討	
3 少子高齢社会に対応する雪対策	3-1 高齢者等の移動手段の確保					
		(1)中心市街地における冬期/バリアフリーの推進				
		歩道ヒーティングの計画的な整備	達成	継続		1-4-(1)に同じ
		(2)快適な公共交通機関の確保				
		公共交通事業者との連携	効果あり	継続		道路維持連絡協議会との連携の継続 乗降所付近の実態把握と公共交通機関との協議
		交通アクセスの強化	効果あり	継続		公共交通機関の運行経路の確認と除雪水準の検討
		3-2 除雪の担い手不足の解消				
		(1)地域除雪活動の推進				
		地域除雪活動による除雪の担い手の確保	効果あり	継続		地域除雪活動などによる除雪の担い手確保
		地域除雪活動の充実	効果あり			
		(2)自助・共助の機能強化				
		自助・共助の機能強化	効果あり	継続		3-2-(1)に同じ
		(3)ボランティア育成の推進				
		除雪ボランティアの確保	効果あり	継続		除雪ボランティアの確保と育成の継続
		除雪ボランティアの育成				
		3-3 除雪弱者への支援制度の推進				
		(1)除雪弱者への支援制度の推進				
				新規	目標	地域住民の協力による住宅前道路除雪の取組町内会数(R1)6町内会⇒順次拡大
			新規	目標	地域住民の協力による住宅前道路除雪の取組対象世帯数(R1)80世帯⇒順次拡大	
			継続	目標	小型除雪機等貸出制度の利用 (R1)11件 ⇒ (R6)22件	
			拡充	目標	住宅雪対策補助制度の利用 (R1) 396件 ⇒ (R6) 500件	
	住宅前道路除雪事業	達成	拡充		地域住民による住宅前道路除雪の取組拡大 ○除雪企業の体力低下や対象世帯の増加により本来の除雪作業に支障を来す状況 ⇒R1に地域住民による間口除雪の取組を執行的に実施(6町内会で80世帯) ◎R2は地域住民による間口除雪の取組を本格実施(40団体304世帯)	
	小型除雪機等貸出制度	効果あり			各支援制度の検証と利用促進 ○気象状況にもよるが利用は低迷 ⇒利用拡大に向けた制度の見直しの検討	
	高齢者等屋根雪下ろし事業	効果あり				
	福祉除雪サービス事業	効果あり				
	旭川市やさしさ住宅補助制度(住宅雪対策補助制度に移行)	効果あり				
	(2)利用しやすい支援制度の仕組みづくり					
	除雪支援制度の充実と質の向上	効果あり	継続		現行制度の見直しや新たな制度の検討 ○高齢化による利用者の増と相反する担い手の不足 ⇒社会情勢に対応した支援制度の見直しや制度構築の検討 ◎制度見直しや構築に向けた仕掛けが必要	
	相談体制の充実				支援制度の各情報媒体による情報提供	
	情報提供の推進				相談体制の充実	
	利用しやすい制度づくり					

施策	内容	関連する主な取組と目標	評価	方向性	取組項目（改定後）
4 親 雪 ・ 利 雪 ・ 克 雪 の 推 進	4-1 雪と親しむまちづくり				
	(1) 雪のイベントと冬期観光				
		イメージアップの推進	効果あり	継続	国内外の招へい事業やプロモーションの充実
		冬期アクティビティの充実	効果あり	継続	冬まつりなど冬期イベントや冬期レジャーイベントの開催継続
		新規コンテンツの整備・開発	効果あり	継続	新たな観光素材の整備・開発
	(2) 雪と親しむスポーツの充実				
		冬季スポーツ取組の機会の提供	効果あり	継続	バーサーロベット・ジャパンなど冬季スポーツ大会の開催継続
		子どもへの冬季スポーツ取組の機会の提供	効果あり		
		バーサーロベット・ジャパン及び冬季スポーツ大会の充実	効果あり		○参加者が減少傾向、財源の確保 ⇒魅力ある大会づくりや歩くスキーの普及と裾野拡大
		冬季スポーツ施設の整備	効果あり	継続	カムイスキーリンクスなど既存施設の改修
		効率的な施設利用の推進			歩くスキーコースやクロスカントリースキーコースの整備
	4-2 雪を利用した技術の活用				
	(1) 雪氷冷熱エネルギーの利活用の推進				
		雪氷冷熱エネルギーの利用	効果あり	継続	雪氷冷熱エネルギーの活用の周知啓発の継続 ○雪氷冷熱エネルギーを活用している施設は少ない ⇒周知啓発に取り組み施設等が雪氷冷熱の活用を検討する機会を増加
	(2) 寒冷地技術開発における研究機関との連携				
		各研究機関などとの連携	効果あり	継続	各関連機関へのコーディネート ○本市に専門的に寒冷地技術の調査研究を行っている部署がない ⇒現在の状況等を鑑みた市役所の役割の精査
	4-3 雪に強いまちづくり				
	(1) 雪に強い住環境の整備				
		快適な冬の住環境の創造	達成	継続	降雪や敷地外への飛散等の所有者責任の理解向上
		安全・安心な住環境の確保	効果あり	継続	管理不全の空き家の所有者に対する周知や啓発 ○管理不全な空き家等の倒壊や屋根崩落、道路への落雪 ⇒現在の状況等を鑑みた市役所の役割の精査
	雪に強い街区づくり	効果あり			
(2) 冬期バリアフリー対策					
	冬期歩行環境の向上	効果あり	継続	路面状況の悪化や段差処理等への対応方法の検討	
	バリアフリー促進経路の整備推進	効果あり	継続	旭川市バリアフリー基本構想の推進と改定の検討	

資料— 7

旭川市雪対策審議会

7-1 旭川市雪対策審議会設立趣旨

本市では、平成 27 年度に策定した旭川市雪対策基本計画に基づき、様々な施策を展開していますが、計画期間の折り返しを迎え、令和元年度から令和 2 年度にかけて基本計画の評価・検証やアクションプログラムの見直しを実施する一方、令和元年度は地域住民による住宅前道路除雪の試行、令和 2 年度からは地区統合やGPS導入へ向けた試行など、更なる除排雪体制の強化に向けた試行的取組も実施してきました。

こうした試行的取組をより実効性の高い取組につなげていくほか、各種施策の効果的、効率的な実践のためには、PDCAサイクルによる適切な進行管理が必要であり、基本計画の評価・検証等を踏まえた基本計画自体の見直しについての検討も必須となるため、「本市の雪対策の推進に関する基本的な計画その他重要な事項について調査審議を行うため」の審議会を設置しました。

7-2 旭川市雪対策審議会の経過

○令和 2 年度第 1 回旭川市雪対策審議会

- ・日 時 令和 2 年 1 2 月 1 6 日 (水) 午後 6 時 4 0 分から午後 7 時 4 0 分まで
- ・場 所 旭川市役所総合庁舎議会棟第 2 委員会室
- ・出席者 1 4 名
- ・議 題
 - (1) 旭川市雪対策審議会について
 - (2) 今後のスケジュール案について
 - (3) 雪対策基本計画 (平成 2 7 年 4 月) について
 - (4) アクションプログラム及び雪対策基本計画の評価・検証について
 - (5) 雪対策基本計画の調査票について
 - (6) 除雪企業アンケートについて
- ・議事の内容

委員紹介、会長・副会長選出、会議の公開について決定後、議事に入る。

議題を一括説明し、本市の雪対策における現状と課題について各委員に認識を深めてもらい、雪対策に関するアンケート調査票の提出を依頼した。

○令和2年度第2回旭川市雪対策審議会

- ・日 時 令和3年2月1日（月）午後6時30分から午後8時10分まで
- ・場 所 旭川市役所総合庁舎議会棟第2委員会室
- ・出席者 13名
- ・議 題 （1）雪対策基本計画の調査票について
（2）委員要望資料について
（3）除雪企業アンケートについて
（4）意見交換
- ・議事の内容
議題を一括説明し、各委員が提出した調査票の内容について意見交換を行ったところ、「ザクザク路面の発生」や「交差点の見通し」、「除雪マナー」、「担い手不足」など様々な意見が出された。

○令和3年度第1回旭川市雪対策審議会

- ・日 時 令和3年4月26日（月）午後6時30分から午後9時まで
- ・場 所 旭川市役所総合庁舎議会棟第2委員会室
- ・出席者 14名
- ・議 題 （1）令和2年度旭川市雪対策基本計画アクションプログラムの取組の実施状況報告について
（2）地区総合除雪業務アンケート結果について
（3）旭川市雪対策基本計画見直しに向けた検討事項について
- ・議事の内容
前回の意見交換で特に意見の多かった重点的に審議すべき取組項目について審議し、見直しの方向性を示した。

○令和3年度第2回旭川市雪対策審議会

- ・日 時 令和3年5月28日（金）から令和3年6月18日（金）まで
- ・場 所 書面会議
- ・参加者 15名
- ・議 題 （1）旭川市雪対策基本計画の計画期間について
（2）旭川市雪対策基本計画の改定素案について
- ・議事の内容
新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態措置が発出されたため、議題の内容について、書面により意見照会を行った。

○令和3年度第3回旭川市雪対策審議会

- ・日 時 令和3年8月6日（金）午後6時30分から午後7時30分まで
- ・場 所 旭川市役所総合庁舎議会棟第2委員会室
- ・出席者 9名
- ・議 題
 - （1）令和2年度旭川市雪対策基本計画アクションプログラムの取組の実施状況報告への意見聴取結果について
 - （2）旭川市雪対策基本計画の中間見直しについて
 - ア 計画期間について
 - イ 旭川市雪対策基本計画の改定素案について
 - ウ 地区統合について

・議事の内容

議題（1）について説明し、令和2年度の取組結果への委員意見と回答について確認した。議題（2）について説明し、ア、イ、ウそれぞれに対する審議を行い、委員意見を反映した案となっていることを確認した。

○令和3年度第4回旭川市雪対策審議会

- ・日 時 令和4年1月21日（金）午後6時30分から午後7時30分
- ・場 所 旭川市役所総合庁舎議会棟第2委員会室
- ・出席者 14名
- ・議 題
 - （1）旭川市雪対策基本計画の改定について
 - （2）旭川市雪対策基本計画アクションプログラムの見直しについて
 - （3）雪対策に関する条例の制定について

・議事の内容

議題を一括説明し、パブリックコメントを経て、これまでの審議会で出された意見が十分反映されたものとして改定案が承認された。

7-3 旭川市雪対策審議会 委員名簿

旭川市雪対策審議会委員は、次の団体から推薦を受けた者と公募委員の15人で構成しています。

学識経験者	旭川大学 国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部
関係行政機関の職員	北海道警察旭川方面本部交通課
市長が適当と認めた者	旭川市総合除雪連絡協議会 旭川市社会福祉協議会 旭川除排雪業者ネットワーク協議会 旭川地区バス協会 旭川地区トラック協会 旭川ハイヤー協会 旭川市市民委員会連絡協議会 旭川市PTA連合会
公募委員	3人

(会長・副会長を除き五十音順)

役職	氏名	役職	氏名
会長	おおの たけし 大野 剛志	委員	たに すみえ 谷 澄江
副会長	かさい てるあき 葛西 輝昭	//	つつみ たくや 堤 拓哉
委員	あべ ゆうじ 阿部 裕二	//	とがし まきこ 富樫 真紀子 さきもと なみ (笹本 奈海)
//	いの まさじ 飯野 雅司	//	なかた ゆきはる 中田 幸治
//	いのうえ ももか 井上 桃花	//	ひらしま かずひこ 平島 一彦
//	えんどう こうじ 遠藤 浩二	//	みはら のりひろ 三原 慎弘 さすが ひさや (貴家 尚哉)
//	おくひら みなこ 奥平 美奈子	//	わかくり たかゆき 若栗 貴幸
//	たなか のりゆき 田中 紀幸		

() は前任者

資料— 8

パブリックコメント

旭川市雪対策基本計画改定案について、より多くの市民から意見を提出していただき、提出された意見を考慮して最終的な改定を行うため、パブリックコメントを実施しました。

○意見の募集期間

令和3年11月22日から令和3年12月23日まで

○市民への周知方法

- ・ 広報誌11月号とホームページに必要事項を掲載した。
- ・ 9地区の除雪連絡協議会総会で説明を行った。

○公表の方法

市政情報コーナー、各支所・公民館及び雪対策課での供覧及び配布

○意見の提出者

総数2（個人2，団体0）（意見数：延べ14件）

○意見書の受付

- ・ 意見提出箱：1
- ・ 電子申請：1

○意見の提出者への回答

意見の提出者に意見等一覧を送付した。

○結果の公表の方法等

公表した場所と同じ場所に関係書類を備え置いた。

○意見の要旨及び意見に対する旭川市の考え方

次表のとおり

「旭川市雪対策基本計画改定案」に対して寄せられた御意見と旭川市の考え方

○意見募集期間：令和3年11月22日(月)から令和3年12月23日(木)

○意見の件数：2人(14件)、0団体(0件) 計14件

No.	寄せられた御意見	旭川市の考え方
1-1	除雪業者の作業評定をしたら良いと思います。4月か5月の「あさひばし」にアンケートを書いた「市長への手紙」の様なものを同封して、市民の満足度を5段階で調査し、4以上は、翌シーズンも指名し、3は市民の意見の内容により指名をし、2以下は指名しません。業者が担当する除排雪区域も、2、3年ごとに変更し、業者の緊張感を持たせるべきです。 担当区域を変更することはオペレーターの数にも年齢にも関係はないと思います。 オペレーターの高齢化や、少子化などにより人員の確保に苦慮しているようですが、だからといって丁寧な仕事をしなくても良いことにはならないと思います。税金が投入されている以上市民の目で公正な評価を受けることは大切なことだと思います。	いただいた御意見のうち、除雪業務評価制度の充実につきましては、本改定案と同様の内容であり、賛同いただいたものと考えております。 評価の結果は、除雪企業自らが作業方法等の課題を認識し、技術力の向上を図ることや、市の担当職員が各地区における地域特性や除雪企業の課題を把握し、的確な指導監督を行うために活用することを考えております。
1-2	除排雪の作業評定は市民委員会会長や町内会長で構成する除雪連絡協議会においてアンケート調査を実施しているとのことですが、現「千代田第六町内会」の会長さんと私の自宅とは離れており、除排雪状況はかなり相違します。市民委員会会長や町内会長がその地域全体の除排雪状況を把握しているとは思われません。	本改定案は、雪対策の方向性を示すものであり、除雪業務評価制度の具体的な内容は実行計画において定めます。
2-1	雪対策に関する情報については、シーズン前に開催する地区除雪連絡協議会の場や、全戸配付の市民広報や回覧板などの紙媒体、ホームページなどにより提供しているが、近年、スマートフォン、ソーシャルメディアの普及、地上デジタル放送の開始等、情報通信技術の高度化が進んでいる。	
2-2	大型車などの交通量が多く、車両の走行速度も速いため、道路上の雪氷が少ない安全で高度な路面管理を行う必要があることから、積雪が10cm程度で新雪除雪を行うとともに、わだちなど路面状況に応じて、路面整正作業を行う。 交通量が少ないため、一般車両の通行に支障を来さない程度の圧雪路面管理とし、積雪が15cm程度で新雪除雪を行うとともに、暖気などによるザクザク路面発生を防止するため雪割除雪を行うが、急な暖気や季節外れの降雨などによるザクザク路面が発生しやすいといった課題があり、近年のめまぐるしく変化する気象状況への対応が難しくなっているため、除雪出動基準について検討を行う。	
2-3	生活幹線道路は、小型車がすれ違い可能な5m以上を基本とし、生活道路は、旧市街地など宅地造成が古く狭隘な道路が多い地区があることや道路占用物件の配置などの関係から3m以上を基本とした。	
2-4	雪の降り始めは、拡幅除雪や往復除雪などを併用し、できるだけ道路を広く除雪しながら、後の除雪作業時のために道路脇の雪の堆積スペースを確保した。	
2-5	GNSS(GPS等)により除雪車両の位置情報を把握し、除雪作業の進捗や経路、時間などの把握を行うほか、多くの労力が必要な事務作業においても、GNSS(GPS等)を利用した日報や月報などの自動作成について検討し、除雪作業の効率化や精度向上を図る。	
2-6	気象庁は、大雪に関する早期天候情報を発表しており、1週間前からの早期の準備が可能となっている。	
2-7	中心市街地は、JR旭川駅を中心として、商業施設や公共施設、金融機関などの都市機能が集まり、高齢者などの歩行弱者も含めて、多くの歩行者が安全・安心に利用する空間を確保する必要があり、これまで歩行者の往来が多い平和通買物公園や昭和通などで、歩道ヒーティングの整備を行ってきた。	いただいた御意見につきましては、本改定案と同様の内容であり、賛同いただいたものと考えております。
2-8	高齢者や障害のある人に配慮した低床バス運行が導入されているが、冬期間は、道路の段差による走行中の衝撃や歩道上の積雪により乗降しづらくなるなど、快適なバス運行を行うためには高度な除雪管理を行わなければならない。	
2-9	雪や冬の寒さを生かした「旭川冬まつり」などのイベント開催、スキーなどのアクティビティの促進によって、冬季観光資源の充実を図り、多くの観光客等が訪れるまちづくりを目指す。	
2-10	積雪寒冷地である本市の特色ある気候は、北国独自の文化の形成に大きく影響し、バーサーロベット・ジャパンに代表される各種冬季スポーツ大会の開催など、冬季スポーツは長い間市民に親しまれてきた。 冬季イベントや冬季スポーツに参加しよう。 冬の旭川に対するイメージアップに取り組み、冬季イベントや冬季レジャーの充実を図る。 冬季スポーツに取り組む機会を提供し、冬季スポーツ大会の充実と施設の整備を推進した。	
2-11	雪氷冷熱エネルギーの利活用の調査研究は、雪を農産物の貯蔵施設や冷房設備などに「雪氷冷熱エネルギー」として利用するなど、多方面における新たな雪の利活用を調査研究した。	
2-12	平成18年12月に「交通バリアフリー法」と「ハートビル法」が統合され、公共交通機関、道路、建築物、都市公園、路外駐車場等に関する移動や、施設利用の利便性や安全性の向上を目的とした「バリアフリー新法」が施行された。	

※御意見につきましては、原則として原文のとおりとしていますが、読みやすくするため、適宜、表記や送り仮名の修正を行い、用語の誤りや誤字についても修正を行っています。